古今類句

た[illegible]

松井蔵書

た

拾玉集七　如是力よ世をはこころやすまさ　大諸揵那みて民長

新続古秋下　雁鳴てまちなん初霜の　たえまよりのみ菊咲けれ　土御門院御製

山家集上　雨よ出て志ほれを流す伏見かな　たえれてとまる女良花かな

壬生二家中　白雲乃立田の山の花さかば　たえむかりまきの錦かな

詞花秋上　七夕はけさひく糸のあはれさに　たつむかきりとこそやすらへん　大納言通経

新葉恋一　恋をしは人ぬ涙の色のなかれ　たつ名はさてもたのまれ　読人不知

古今俳諧　ありぬやと心みかてらあひ見ねは　たはふれにくきまてそ恋しき　同

拾遺哀傷　月かけを見てそさそとくらへるは　たまえ萱そひとりくらす

山家集下　新湯てる山の月へまりしこそ　たまる桂の雪とみてい

拾遺恋草中　いくよ会まて三月の宿桜なん　たまるまたも方おとに河

拾玉集七　風はるみまた桜さきえそ　たまてそつる花は白雪　慈鎮

続後拾春上　明日新かりある世まやこう　たまてのこしぬ鶯の一声

長秋詠藻　君か代はまたも桜もみる身は　たまてらちぬと何をか恋ん

金葉八雑下　身をそこうまひ山まの月を　たまのふることの新とれ　皇后宮大夫俊頼

玉葉八雑三　高雄山清滝川をわたりゆく　たまのけかるる松の古道　権大納言公基

新続古雑上　うち折し源のたの花さくらり　たまのせさりてあかぬまま　兵部卿隆親

[illegible]文庫

拾玉集六　こゝろざし[illegible]　たまかつら[illegible]

風雅雑中　宿ちかき[illegible]　たまよりの[illegible]　従三位[illegible]

玉葉恋　[illegible]　たまよりの[illegible]夕立の雲　常磐井入道太政大臣

壬生二集　[illegible]　たまかつら[illegible]

山家集上　[illegible]　たまかつら[illegible]

拾玉集五　[illegible]　たまかつら[illegible]

拾遺恋五　[illegible]　たまかつら[illegible]　土御門

壬生二集上　[illegible]　たまかつら[illegible]

金葉秋　[illegible]　たまのかけ[illegible]　修理大夫顕季

山家集下　[illegible]　たまのをの[illegible]

新勅雑二　[illegible]　たまみたる[illegible]　和泉式部

千載春上　[illegible]　たまかつら[illegible]　藤原顕綱朝臣

続千春上　[illegible]　たまかつら[illegible]　定家

新拾春上　[illegible]　たまのをの[illegible]　大納言為信

新拾雑春　[illegible]　たまのをの[illegible]　大納言経信

壬生二集中　[illegible]　たまかつら[illegible]

金葉雑上　[illegible]　たまのをの[illegible]　源[illegible]朝臣

後拾遺恋上　[illegible]　たまのをの[illegible]　藤原[illegible]朝臣

千載雑上　[illegible]　たまかつら[illegible]　法成寺入道前摂政太政大臣

壬生二集下　[illegible]　たまかつら[illegible]

長秋詠藻下　[illegible]　たまかつら[illegible]

拾玉集一　[illegible]　たまのをの[illegible]

初音　[illegible]　たまのをの[illegible]

詞花恋下　[illegible]　たまかつら[illegible]

同　[illegible]　たまかつら[illegible]　平兼盛

後拾遺春上　山川の[illegible]　たまかつら[illegible]　律師仁祐

拾遺愚草下　[illegible]　たまかつら[illegible]　大僧正行尊

壬生二集上　[illegible]　たまみかく氷[illegible]

同　[illegible]　たまかつら[illegible]

後撰雑二　[illegible]　たまかつら[illegible]　よみ人しらず

新勅恋五　[illegible]　たまかつら[illegible]　[illegible]

千載雑中　[illegible]　たまかつら[illegible]　中納言定頼

壬生二集　[illegible]　たまかつら[illegible]

拾遺恋下　[illegible]　たまの[illegible]

月清集上　[illegible]　たまみかく[illegible]

新拾恋上　今[illegible]　たまの[illegible]　法[illegible]入道[illegible]

新勅撰十六　ちる紅葉[illegible]　たまの[illegible]　基俊

月清集下　山河のせゝの[illegible]　たまのしら[illegible]

山家集下　岩間ゆく[illegible]　たまの清水やまの月かけ

壬生二　[illegible]　たまのまきれの山郭公

拾玉集七　我山[illegible]　たまえに[illegible]

風雅雑中　山路[illegible]　たまぬき[illegible]　権律師慈成

松風　紅葉[illegible]　たへぬひかりの[illegible]　前大納言卿

後撰恋四　[illegible]　たへぬ思ひの[illegible]

玉葉秋下　[illegible]　たへぬ人の[illegible]

大和物語　[illegible]　たへぬおもひの[illegible]　源家清

新古雑上　松山の[illegible]　たへぬなみだの[illegible]　中務卿宗尊親王

新拾遺恋五　[illegible]　たへぬ[illegible]　前関白左大臣

新千載恋一　つらき[illegible]　たへぬおもひを[illegible]　源重氏

続後撰恋三　[illegible]　たへぬなみだの[illegible]　権中納言師継

拾玉集六　[illegible]　たへぬ[illegible]

壬生二　[illegible]　たへぬ[illegible]

同中　[illegible]　たへぬ[illegible]

新後拾遺恋五　わか[illegible]　たへなるの[illegible]　皇太后宮大夫俊成

後撰冬　消やらぬ[illegible]　たへあかぬ[illegible]　権大僧都[illegible]

長秋詠藻下　あさき海[illegible]　たへなる[illegible]　赤染衛門

風雅冬　[illegible]　たへて[illegible]　前大納言為家

続拾遺三　別れ路の有明の月[illegible]　たへていのちの[illegible]　前権僧正実伊

続後撰秋下　秋の夜の有明の月[illegible]　たへてつれなき[illegible]　読人不知

新後撰秋上　[illegible]　たへてうき[illegible]　源宗家

続後撰雑上　[illegible]　たへてやは[illegible]　権中納言師継

新勅撰冬　[illegible]　たへてある[illegible]　権中納言実衡

続千載二　命[illegible]　たへてきく[illegible]　権中納言重有

新続古今雑上　老らく[illegible]　たへてこそ[illegible]

拾遺恋五　[illegible]　たへてもの[illegible]　平重時朝臣

続古秋上　今[illegible]　たへてもつく[illegible]

壬生二中　[illegible]　たへても[illegible]　武蔵[illegible]

続拾雑中　[illegible]　たへてもの[illegible]　平時遠

続千秋下　今[illegible]　たへても[illegible]　よみ人しらす

新古雑中　滝の[illegible]　たへても[illegible]

新古冬　[illegible]　たへさらの[illegible]　法印元輔

新勅恋四　[illegible]　たへ[illegible]　よみ人[illegible]

千載恋一　おもひきくものうへしきてしのひつゝ　たへまかぬたまのをはかり　若宗親隆
新古雑下　草まくらゆふ霧かくれさえて　たへまかちのむかしをそおもふ　赤染衛門
新拾雑上　雲の上まても月のかけきよき　たへまなくみの衣うつらん　源仲正
新続雑中　四方の海浦の浪のしつけきに　たなひきわたる春霞かな　よみ人しらす
風雅雑上　千とせふる峰の桜は咲にけり　たなひくまてもあきらかにみゆ　大蔵卿宗
山家集下　花とみる梢の雪に月さえて　たなひくかけもおほろなりけり
後拾遺恋四　白露も夢もこの世もまほろしも　たとへていへはひさしかりけり　和泉式部
拾遺哀傷　ありとてもたのむへきかは世中を　たとへていはんことのはもなき　平定文
拾玉集一　君か代はうこきなくしてきはめなし　たとへていはむかたそなき
新拾夏　ほとゝきすなく一声をきゝそめて　たとる〳〵も一声もかな　関白太政大臣
壬生二集下　こゝろさしふかき山の峯の松　たとる衣袖にかゝる涙よ
後撰雑二　しら雲のたえすたなひく峯にたに　たとる〳〵そ山路にまよふ　そせい法し
拾遺雑上　もろともに月にたとれる道しるへ　たとる〳〵そ山にきにける　同
後撰恋四　墨染のくらまの山に入人は　たとる〳〵もかへりきななん　平なかきかむすめ
大和物語　すまのあまのくらまの山につゝみては　たとる〳〵もかへりきるかな
後撰恋二　暮ぬとてねてゆくへくもあらなくに　たとる〳〵もかへるまされり　在原業平朝臣
蘭　まとひつゝあきのゝ花にさそはれて　たなくしくれのはなの露
続古集七　霧こめて床の涙もかはかぬに　たちぬれ衣のあさの風

後撰恋又　山里の衣をそうつ夕されは　たちかへりてもみるかひもなし　藤原忠
古今雑下　白雲のみねにむすほゝれしかし　たちへてもさきにやきなん　寿（？）
古今雑下　人かすにあらぬみなれはすすしきを　たちかへりてもさそひしかな
山家集　うきみにてあらしのすゑにつゆふかく　たちかへりてもさらにうつらん
拾玉集一　つねならむ世のなかにおもひつゝ　たちかへるへきこのみちの蓬　上東門院
新後拾雑　いとゝしくもの思ふ世の中に　たちかへるともおもひけるかな
拾遺物名　思ふともこのことはりもかくれなき　たちかへりつゝいつかゆかまし　よみ人しらす
拾遺恋草下　おもひわひこひしきことをなけきつゝ　たちかへりてもこゝろはそしらん
新後拾離別　わかれてもかへる浦の風をまつ　たちかへるとも日数まても　皇太后宮大夫俊成
新古雑中　おもひおこすこの浦のなみかせに　たちへかへりてもふかきなさけを　藤原定家
新勅冬　たつたかはあきのみしかき日も　たちかへりても山ふかくなりぬ　権中納言宗家
新拾雑上　紅葉ちる風のまにまにゆきかよふ　たちかへりてもかえるまにまに　見之
風雅旅　おもひやるみやこのかたの浦ちとり　たちかへりてもかはる浪か　常磐井入道前太政大臣
玉葉恋一　ぬれそめてそこしれぬ身のなかれても　たちへてもおなしうきなか衣
枝稲　なかきよはおもひのはてのつきかけに　たちかへりてもねさめしてけり　和泉式部
千載恋又　そのかみのたのみしことをおもひても　たちへてもこそなみたなりけれ　藤原基俊
新拾秋　逢坂の関の杉村霧こめて　たちもかくさぬ駒のあしおと　権大納言……

拾遺雑上　つゆもつらみなれからのよに　まちとりしおかれかおほいなるを
壬生二忠下　つくしてつゝましやまぬ身の　まちぬるの人にたまへるかな　閑院
後撰秋上　わかせこか七夕つめにまひしくて　まちぬるよさのあけまくをしき　源三位
新古今哀傷　おもへ君なき身に涙ひとへて　まちかくれたるまつの風すこしと
山家集上　ちるをそけにまつをしむ身のうへに　まちかくれてちるやらん
後拾四　ことしもまたあはてなきものを　まちかくれてなをまつかな
新後拾雑別　かへりこん程をまちてもまたれけり　まちかねしひさしき
金葉　おもひやれつらきわかれをすゑまても　まちわひてゆかしきまつ　藤原教長
続千載羈旅　ふるさとをおもひやるにもひさしきに　まちかねし秋をまちつる　藤原顕輔
千載哀傷　旅のよにしなかひけんあまの山　まちわひてかへりきにけり　藤原
壬生二下　うらちかき波のまに〳〵　まちわひて夕ぐれの空　
月清集上　宮城野のもとあらの小萩露をおもみ　まちわひてあき風の　
古今雑別　くるとあくとめにはみれとも　まちわひてながむるそらに　きのつらゆき
拾遺賀　きみかためしるしの雲をたつね　まちわひてなかめひとりや　
続後拾秋雑　むかしをしのふかひなきほと　まちわひてあけかたちかき　よみ人しらず
同恋三　ゆふくれのさしくるしほに　まちわひて秋もくれぬる　藤原有家
続後撰春中　春のゆふへ雲のころもはきぬくに　まちわひてやはなのかゝ　藤大納言忠良
新古今恋三　こひしさは今も涙にまさるかな　まちわひてやたのめしを　平師親

新撰恋二　わかまちし雲のかよひちたちかはる　たちかへりてまつをしもなき　藤原俊文
大和物語　わかふるさとをみてやなくらん　たちかへるひとのきてそまつ　
山家集下　まつもまたかはるちきりをたのみては　たちかへりあふのかたみかな　
後拾雑上　きくをまつもひとつのゝへに　たちかへりふゆのうらなみ　道法法師
千載雑中　うたゝねにおもひつゝけしゆめのうちに　たちかへりぬるあさかほ　藤原季経
新拾遺哀傷　あはれさをかへりてはたゝ山　たちかへりなりまさる　小弁
新秋冬　冬の夜のさむさもひとしおほろなる　たちかへりあかつきの　後三条院
新拾恋　はるのをりかたみとやみるふかき山　たちかへりてなかむる　花山院御製
同雑中　さひしさをおもひやるかな山里に　たちかへりてたかまつ　藤原家隆
新葉雑下　命あれはまたもみゆへきつゆの　たちかへりてまた人のみる　前大納言光
続後拾羈旅　ゆくもまた　たちかへりてもとの宮に　
山家集上　山川の岩まにうつるかけ　たちかへりやかてかくて　
続後拾雑下　秋をかけてたのまれしひとの　たちかへりてもあはぬまに　法印覚源
新古今雑下　秋のあはれはさくらに猿衣　たちかへりても秋そかなしき　左京大夫
新拾遺雑秋　つゆのゐるあきのゆふへのもみち　たちかへりてもなきかの　小槻匡遠
続撰恋三　別れかのみ　たちかへりてもみさきのうら　貫之
新拾秋恋四　かくれぬまのみをつくしの波　たちかへりてもかなしきは　宗秋法師
新続古雑上　かゝるみちのゆく人をまつ　たちかへりみゆるか　藤原

玉葉秋下　時雨れて[illegible]秋のかたみ[illegible]　たちかへり[illegible]　前大納言為氏

続千載恋上　衣手の四方の山の[illegible]　たちかへりても[illegible]　同

新千載春上　さほ姫の神[illegible]浦の鶴[illegible]　たちかへりても[illegible]　中宮

続後撰恋二　[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

同春下　[illegible]　たちかへり[illegible]　よみ人しらず

続千載春下　[illegible]　たちかへり[illegible]　伊勢

玉葉恋四　七夕に[illegible]　たちかへり[illegible]　和泉式部

続後拾遺春上　[illegible]梅の[illegible]　たちかへり[illegible]　選子内親王

新後拾遺春上　[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

新続古今恋　蝉の羽の衣に[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

続後撰恋二　[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

玉葉秋上　[illegible]　たちかへり[illegible]　紫式部

続古今雑上　[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

新続古今恋五　[illegible]梅の[illegible]　たちかへり[illegible]　侍従[illegible]

拾[illegible]　[illegible]　たちかへる[illegible]　[illegible]

拾遺雑[illegible]　[illegible]　たちかへる[illegible]　つらゆき

月清集上　[illegible]枕月[illegible]衣[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

新後拾遺羈旅　[illegible]　たちかへる[illegible]　[illegible]

新後撰羈旅　[illegible]の波　たちかへり[illegible]　[illegible]

新千載雑中　松嶋や[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

手習　[illegible]　たちかへる[illegible]　[illegible]

拾玉集又　世の中は[illegible]の[illegible]　たちかへる[illegible]　[illegible]

新勅撰雑二　[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

詞花恋　風[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

新続古今恋一　[illegible]　たちかへり[illegible]　三條[illegible]

玉葉旅　[illegible]浦の[illegible]波[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

新後拾遺雑中　[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

新葉[illegible]　[illegible]川[illegible]　たちかへる[illegible]　[illegible]

拾遺雑秋　秋[illegible]　たちかへる[illegible]　[illegible]

新続古今雑[illegible]　[illegible]　たちかへり[illegible]　従二位[illegible]

大和物語　[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

拾遺哀傷　[illegible]花[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

古今俳諧　[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

同春上　[illegible]　たちかへり[illegible]　同

玉葉雑[illegible]　[illegible]　たちかへり[illegible]山の[illegible]　つらゆき

新[illegible]秋下　[illegible]　たちかへり[illegible]秋[illegible]　小一條院

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

新續古三　海士のすむ里とはきけと[illegible]　たちよるまても[illegible]　前大納言[illegible]

後撰秋中　秋霧のはるゝ小野の女郎花　たちよる人も[illegible]　兼覧王

玉葉雑三　君か代は[illegible]花の木のもとに　たちよる[illegible]　二条院

拾玉集　錦木は[illegible]の数[illegible]　たちよる[illegible]　家隆

続千五一　年をへて[illegible]　たちかへり[illegible]　平経貞

壬生二集中　あれはてし海士の[illegible]　たちかへる浪[illegible]

続後拾一　[illegible]　たちかへる[illegible]　丹波大守[illegible]

新古哀傷　消えそ煙の[illegible]　たちそふ[illegible]　伏見院[illegible]

新後拾秋上　[illegible]　たちかくる[illegible]　按大納言[illegible]

千載秋上　秋のくる[illegible]　たちそふ[illegible]　待賢門院[illegible]

後拾遺雑　[illegible]　たちかへり[illegible]　入道前太政大臣

古今冬　[illegible]　たちかへり[illegible]　よみ人しらす

新勅秋上　天河[illegible]　たちかへり[illegible]　菅原在良朝臣

新古秋上　[illegible]　たちかへり[illegible]　大宰大弐重家

後撰秋中　秋風に[illegible]月[illegible]　たちかへり[illegible]　藤原清正

新秋[illegible]　[illegible]　たちかへり[illegible]　清原深養父

拾[illegible]　[illegible]　たちかへり[illegible]

後拾四　[illegible]　たちかへり[illegible]

拾遺恋二　[illegible]　たちかへり[illegible]　よみ人しらす

拾遺[illegible]　[illegible]　たちかへり[illegible]

古今離別　[illegible]白雲の　たちかへり[illegible]

新古冬　風さむみ[illegible]　たちかへり[illegible]　正三位季経

新後恋一　[illegible]　たちかへり[illegible]　式子内親王

後古雑中　[illegible]　たちかへり[illegible]　入道前太政大臣

万葉賀　[illegible]　たちかへり[illegible]

玉葉雑四　[illegible]　たちかへり[illegible]　[illegible]

新千恋　[illegible]　たちかへり[illegible]　藤原[illegible]

新続古恋三　[illegible]岩波の　たちかへり[illegible]　寂念法師

拾玉集四　[illegible]　たちかへり[illegible]　基俊

続後撰雑　[illegible]　たちかへり[illegible]　源俊頼朝臣

玉葉春上　[illegible]　たちかへり[illegible]初春

拾玉雑二　[illegible]　たちかへり[illegible]　紫式部

続拾雑上　[illegible]　たちかへり[illegible]　中納言[illegible]

続後拾恋　足引の山[illegible]　たちかへり[illegible]　前中納言匡房

新後拾冬　吉野河[illegible]　たちかへり[illegible]　凡河内躬恒

古今恋　秋霧の[illegible]　たちかへり[illegible]

後拾雑六 いつくせんつらぬ[illegible] なちの[illegible] 鴨長明

寿本 [illegible] なちの[illegible] 在原業平朝臣

拾遺[illegible] [illegible] なちのをとゑ[illegible] 菅原信実朝臣

新勅秋下 日[illegible]秋風[illegible]捧簾の なちの[illegible] 新院御製

後拾雑上 今[illegible]秋霧の なちの[illegible] 大中臣[illegible]

後拾秋上 花[illegible] なちのしも[illegible]男[illegible] [illegible]

後撰秋下 秋霧[illegible] なちの[illegible] 藤原経衡

後拾冬 大井河[illegible] なちの[illegible] 白河院御製

千載恋二 [illegible] なちの[illegible] 藤原家実

拾遺雑下 [illegible] なちの[illegible] 大納言[illegible]

後拾遺[illegible] [illegible] なちや[illegible] 選子内親王

後拾秋下 [illegible] なちや[illegible] 人丸

拾遺恋中 [illegible] なちの[illegible]

月清集下 [illegible] なちの[illegible]

新千秋下 九[illegible] なちの[illegible] 常盤井入道太政大臣

風雅雑下 [illegible] なちの[illegible] 藤原定長

千載恋二 [illegible] なちの[illegible] 待賢門院[illegible]

玉葉秋下 山[illegible]河[illegible] なちの[illegible] 貫之

拾玉集三 山里の梅[illegible] なちの[illegible] [illegible]

後撰秋下 [illegible]秋の山[illegible] なちて[illegible] 大[illegible]

新後拾羇旅 [illegible] なちて[illegible] 権中納言兼宗

新勅雑二 [illegible] なちての[illegible] 如願法師

拾遺恋三 [illegible]雲[illegible] なちて[illegible] [illegible]

新勅恋二 [illegible] なちての[illegible] 同

新古雑中 [illegible]山 なちの[illegible] 人丸

後千[illegible] [illegible] なちの[illegible] 伏見院御製

古今六帖 [illegible] なちの[illegible] [illegible]

新後秋下 [illegible] なちの[illegible] [illegible]

新千雑[illegible] [illegible] なちの[illegible] 後[illegible]

後拾羇旅 [illegible]衣 なちの[illegible] 安嘉門院四条

後拾雑一 [illegible] なちの[illegible] 大納言[illegible]

新勅雑三 今[illegible] なちの[illegible] [illegible]

新後古羇旅 [illegible]衣 なちの[illegible] [illegible]

新後羇旅 [illegible] なちの[illegible] 山階[illegible]

同雑下 [illegible] なちの[illegible] 津守国助

山家集下 [illegible] なちの[illegible]

拾遺愚草中　[illegible]　たちも[illegible]　中務卿宗尊親王

風雅雑下　[illegible]　たちも[illegible]　従一位[illegible]

続後撰雑中　[illegible]　たちも[illegible]　[illegible]

新拾遺雑上　天の戸[illegible]　たちも[illegible]　[illegible]

続後撰春下　[illegible]　たちも[illegible]　後京極摂政

新千載冬　[illegible]　たちも[illegible]　[illegible]

拾玉集一　[illegible]　たちも[illegible]

壬生二上　秋乃[illegible]　たちも[illegible]山[illegible]の月

新勅撰秋上　小倉山[illegible]　たちも[illegible]　西行法師

金葉春　桜花[illegible]　たちも[illegible]雲　修理大夫[illegible]

新拾遺春下　[illegible]山[illegible]　たちも[illegible]　源重之

新後撰秋下　月[illegible]　たちも[illegible]　従二位家隆

新千載春下　[illegible]桜の[illegible]　たちも[illegible]　[illegible]

続古今春上　早蕨[illegible]　たつ[illegible]　皇太后宮大夫俊成

風雅雑上　[illegible]　たつ[illegible]山[illegible]　[illegible]

同冬　[illegible]　たつ[illegible]　[illegible]

新後撰春下　[illegible]　たち[illegible]　[illegible]

新勅撰春下　吉野河[illegible]　たちそて[illegible]　待賢門院[illegible]

新続古今夏　我宿の[illegible]　たちそて[illegible]　[illegible]

古今春上　[illegible]　たちそ[illegible]　[illegible]

続後撰春中　[illegible]　たちま[illegible]山桜[illegible]　[illegible]

新拾遺恋一　[illegible]　たち[illegible]神の[illegible]　[illegible]

千載秋上　[illegible]　たつ[illegible]　従三位[illegible]

拾遺[illegible]上　[illegible]　たつ[illegible]　[illegible]

新千載　[illegible]　たつ[illegible]　[illegible]

拾遺恋[illegible]　[illegible]　たつ[illegible]　[illegible]

続古今秋　[illegible]　たつ[illegible]　[illegible]

新千載[illegible]　君か代[illegible]　たつ[illegible]　[illegible]

拾玉集[illegible]　世中[illegible]　たつ[illegible]　[illegible]

同　[illegible]　たつ[illegible]

新拾遺雑上　[illegible]　たつ[illegible]　[illegible]

新後撰[illegible]　[illegible]　たつぬ[illegible]　[illegible]

古今秋上　[illegible]　たつぬ[illegible]　[illegible]

新続古今雑中　[illegible]　たつぬ[illegible]　[illegible]

新勅撰[illegible]　[illegible]　たつ[illegible]　[illegible]

新続古冬　いつも猶しくれし空の定めなき　たつたの山はすゝみもなし　按察使顕朝

新古今秋上　露しけき野のしの原すゝき　たつかつらきはけしきなるらん　源具氏朝臣

続古秋上　あはれ猶しくれてそゝく朝露を　たつかつらきの紅葉ちるらん　後京極摂政

伊勢物語　出てこし跡たにいまたかはらしを　たつかひとはゝなにかなるらん

新古恋又　いつしかと思ひしはかなきよなれとも　たつかなしきと今はいふらん　業平朝臣

秋玉集二　秋の野の千種の花をあはれとて　たつかせひとつの雲の色そ

拾遺自外上　梅か枝にふりつむ雪を吹く風を　たつ暁の峯にとまりゆく

壬生二見上　山ふかくしてまつれる霜の松　たつ世はうつろへて秋世のあらん

新拾恋四　思ひあまりいひてもあらぬ　たつ世の人をしたはるゝらん　前大僧正慈鎮

新古今上　さらぬたに寂しき秋のゆふ風の松のこゑ　たつ世のひとつの夕暮しらん　白河院御製

新拾雑中　音なくて軒のしのふの松のこゑ　たつ世にはつくも梅なるらん　前大僧正慈鎮

続千春下　立(?)なりしもかすみにそなる　たつきのはてそつひにあらん　法皇御製

玉葉秋上　松むしもなくや夕暮の秋の野は　たつまふりそむる衣手にしられ　伊勢

続拾秋上　今よりは衣かりかねもふきたる風に　たつゝむしなのきぬたのをとるらん　前大納言為氏

壬生二見中　まつ嵐にふく山風のみねを　たつゝそめつけて此嵐の跡

拾遺雑恋　人しれぬ人まちかほにきこゆなる　たつゝのゆふくれ今夜そあはなん　小野宮太政大臣

古今秋上　秋風に初雁かねそきこゆなる　たかたまつさをかけてきつらん　とものり

新勅雑四　夏秋の世の草のあさもとより次　たつ夜のさもろりしにて関守　入道前太政大臣

壬二集中　さほ姫の風もかすみの衣重て　たつた姫たれもよをなへ月　新

続古秋上　露ふかきかれ野のしの原むすひをき　たつたまくら袖ぬるゝらん　中務卿親王

新後拾秋下　枯ゆく野の名残の木のは散るへき　たつたなかれてもみちなかるらん　前大納言為定

続後撰春上　霞しく嶺の桜の花そかたまけて　たつたの高嶺のさくらちるらん　入道前太政大臣

新古雑下　秋はなほ心をつくすよはのかきねに　たつたの世をそうき人の涙　寂蓮法師

拾遺恋上　ときはなる松のみとりのさねかつら　たつたのかはもあらしもなし　中納言朝忠

山家集上　ひとりねのよはのさむしろまつ人の　たつたのゆふつけとりのなくらん

千載春上　花さそふ名残をくもにふきとめて　たつたの山よしの風　源俊頼朝臣

新古春下　何となく春の山里　たつたとものぬしの風そなる　法印寂信

続古雑上　みよしのゝ山かけ高き波のうへに　たつたなかれてけふもくるらん　正三位知家

新古恋三　妹背山なかれてよしの川の水の　たつたかはらそ思ひ出ぬる　行念法師

続後撰恋下　おもひかね今も夕暮のかすみ　たつたのはらの風さむし　良暹法師

新後拾恋一　思ひかね今は人をもうらみしな　たつたちのつらき人にもあはん　惟宗忠秀

新古恋三　あはれなりいつまてかくて恋しきを　たつたのやまのつらきみねには　中宮大夫家房

拾玉集四　いつまてかわかれもあはて逢坂の　たつたの月のかけそのこれる

風雅春上　吉野山峯の雲のかゝれる村雨に　たつたの桜もちるらん　源信明朝臣

新続古雑　きのふ今日花のさかりの都にも　たつたのもみちはちるなり　今出河院近衛

新後拾恋　心にもあらてうき世にすみそめて　たつ衣の初音そなる　実兼院大納言

後撰恋四　ちらねともかねてそをしきもみちはゝ　たつたかはきえゆくなかは　読人しらす

後拾雑秋　うれしさを秋の月よにおもひしむ　たつたの山の　藤原長家

続千雑下　思ひやる心のかよふ宿にかくれて　たつたのやまの　藤原基俊

新千哀傷　かつゝきゆくかたもしらぬ秋の　たつたひめ　大納言経信

同秋上　おほつかな秋の夕くれ　たつてもかも　新宰相

続古雑上　こゑたかきかねの　たつてもかも露けき　藤原家隆

壬生二京中　あさきよし　たつ袖かける梅の花　

古今春上　色よりもかこそあはれとおもほゆれ　たか袖ふれしやとの梅そも　よみ人しらす

詞花春　梅のはなにほひをうつす袖のうへに　たつそてふれしやとの梅かえ　源道済

続拾秋　あまの河とわたる　たつまのさとに　中務卿宗尊親王

新続古恋二　つれなさをいとひも　たつまちにはつ秋の　宗良親王

続千恋　宮木ひく　たつさはにこそ　大納言為氏

新続古恋　いつも山　たつてなかめし　民部卿資宣

千載恋三　おもひかね　たつてきよるひとり　弁乃めのと

続古羇旅　いつもの宮　たつねゆくまに月そ　中納言為氏

新勅恋上　ゆふくれの月　たつねゆくやまの梅の枝　覚延法師

金葉秋　いつしかと　たつねぬる尾花なしに　

拾玉集一　みよしのゝ山のさくら　たつ川の花のみなかみ　慈鎮和尚

同七　たのめつるほとはすきゆく　たつうかへの松のおもかけ　藤原隆信

玉葉冬　冬の池のあさけの　たつつみの雪のふるとも　高市黒人

新拾雑上　あさきよりなかれて　たつかさむきはるの　

拾玉集四　雪ふれはかれ木の　たつなのみ雪の　関白左大臣

新葉秋上　やまさとはゆきの　たつねこし香の　中務卿宗尊親王

新続拾冬　いかにせん　たつねてそ雪の　

拾玉集六　谷のほりや　たつねみる花の　

新葉春下　山の端にかゝる雲　たつの花のちる　

続古冬　秋のかせも　たつ月のみすのはし　

風雅冬　よなよなの　たつ風に松の　

新続古雑中　たかさこの松も　たつの月の　

月清集下　み吉野は山の　たつ雪の今朝　

同上　浦風に花の　たつしも沖にも　

続拾恋　おもひやる　たつ名はたゝ　参議雅経

風雅雑下　思ひきや　たつふるさとの　従三位

新古春上　春たてと　たつゆきのまたふる　太宰大弐三位

新千春上　思ひやる　たつゆく梅の　月花門院

玉葉雑　よそのみ　たつかはの　平義政

続古雑下　ありまゝてうき身ハをしと思ひしに　たつねつけゝるも世のいとはん　前大納言基家
新古春下　昔たれかゝるさくらの花をうゑて　たつねかうまの花のちるらん　前大僧正慈円
新拾秋上　秋きぬと思ひもあへぬ夜さむかな　たつねかうる花袖の露のそてのうら　円光院入道関白太政大臣
後拾恋三　つらくともかれしと思ひし身ハなれぬ　たつねかうの秋のゆふくれ　権中納言敦房
続古秋上　峰の嵐に紅葉ちるらし　たつねかうの秋のあさよん　左近中将公雄
新続古秋上　それとなき夜半のまとろみ　たつねかうをきかへてこそん　前大納言伊光
続拾遺雑上　霞あかぬ人の心のほとも　たつねかうなけかれとなり　太宰大弐成実
続後撰雑　かゝる身のなけきのもとに　たつねかうの花のちるらん　藤原信実朝臣
続古恋三　夜をかさね秋のよなかの月のさへ　たつねかうゝさゝなみのよし　藤原信実
風雅雑上　衣かたしき夜をかさねつゝ　たつねすもあかぬあつまの　後伏見院左兵衛督
拾玉集四　かれはてしみきハの水に　たつねよの中よのさとをみる
後古恋　あすよりハ心のまゝに思ふにも　たつねのへ来しのひそめし　花山院寺
山家集下　あらし吹ひはらの山に　たつねの月をとしたつ
風雅雑下　たゝまほしあかつきのとこそ　たつねしもたつねかさなる　後嵯峨院内侍
新続拾恋　白雲のとをき山路のよそにして　たつねしをたつねし人の　藤原顕内家
新拾雑上　春さくら咲ける山路の梅の花　たつうへをよそにたかさめん　貞信公
大和物語　春くれてとふ人もなき梅の花　たつうへをとふたちのなき
山家集下　たつ人のまたてふる梅の花　たつらふかきおもかけにして

新続古春　あかつきのそらにもしらぬ風のおと　たつらぬ世をまてこそかへてみん　前秋門院一条
続拾恋　人のかをもとめてまつとおもひしを　たつらなる世とさへゆくらん　権僧正慈実
新続古恋三　みちもくれなゐにけるあはれさに　たつらさとしのひにくらしつゝ　信空法師
続古恋　露けきかたにあふはなかりけり　たつらまさにつゝましきかん　侍従行家
新千恋四　はかなきもこのゆふくれの秋の風　たつら〳〵との渡しかはらん　藤原基世
続拾雑秋　色にいてゝしのふる人のことのはを　たつはゆきてこそわかるゝ　入道二品親王
山家集下　むかしにもあらぬ世の中の花のいろ　たつはれてなかるゝ　
新続古賀　我君の千世のためしに　たつの月にかへるなき水　藤原道信朝臣
月清集上　秋のよの月にあはれのまさるらん　たつねまちしくまちしらぬ月　
風雅雑　忘れても人をうらみん時もかな　たつのたつかき山川のさ　弘法大師
続古哀傷　なくなくてみる夢のうちの夜のあはれ　たつのゝ山の月のかゝる　中務大輔家実
続千秋　時うつりゆきてかはらぬ　たつのまたかへる人の恋　入道二品親王
壬生二家集　霞吹く春の山かせの風の音　たつ水にかなしむ　
風雅恋四　思ふ人もあはれかはらぬ　たつねもしらぬはかなかりけり　順徳院御製
新続拾恋二　からすならてかたらぬ事も　たつねしもいつかあはれ　蓮生法師
風雅雑下　柿のもとにたちかはりつゝ　たつねかもおもひ世にいつかたちかへり　宗尊親王
続古恋二　月かけのそてにみえゆく　たつらぬ秋のたかさこのまつ　後京極摂政前太政大臣
風雅雑上　志賀のうらや身に人もしらぬ　たつねしらぬはかなかりけん　権大納言資忠

続古今六 あま雲のちかくみえてもきこゆ也 たかくそきこゆるよはのかりかね 前中納言定家卿
風雅賀 君か代はためしにひかむ白浜の たかさこやまのみねのまつかえ 匡房
新古今賀 雲のうへにちよをめくらん秋のつき たかさこの山の松にかゝれる よみ人しらず
拾遺雑秋 まつの秋はたかきそらにもさえわたり たかさこの尾上の風にふかれ行 つらゆき
新千載下 桜花さきにけらしなあしひきの たかまの山にかゝるしら雲 大蔵卿行宗下
月清集下 霜さゆる松の枝にもおく露の たかさこの松の月やさやけき
壬生二百上 あさまたき谷のかけ路をこえくれは たかまの山にかゝる白雲 一条院摂政
新後拾秋 思ひやる心もそらにしら雲の たかまの山にかゝるとそきく 藤原光俊朝臣
続古今二 よそにみて我やゆきなんかつらきや たかまの山のみねのしら雲 前大納言為氏
続後拾春上 まちわひぬ霞のうちにまつはかり たかまの山の花さかりかな 寂蓮法師
続千載上 おく山の雲のいつこかへたつらん たかまの山のみねのしらくも 前中納言匡房
続古今八 久かたのくもゐの月もさやけきに たかまの山にかゝるうき雲 法性寺入道前関白太政大臣
新後拾冬 冬の夜のさむき風にやしら雲の たかまの山にちる木の葉かな 法印定円
風雅春中 白雲の八重にかさなるをちこちの たかまの山の花さかりかな 前中納言匡房
月清集上 いつしかとみねの雪さへきえなくに たかまの山に春やきぬらん
新続古秋上 よそにのみ雲をやみえしかつらきの たかまの山の秋の夜の月 西園寺前内大臣女
拾遺愚草上 よそにのみきゝしかつらきの いまそみる たかまの山の雲のとたえを

壬二集下 よそにのみ思ひしものをかつらきや たかまの山の峰のしら雲
新古今恋一 よそにのみ見てややみなんかつらきや たかまの山の峰のしら雲 よみ人しらす
新拾遺秋下 入日さすみねよりくたるうき雲の たかまの山のあきかせそふく 常磐井入道太政大臣
山家集上 きさらきや雪けの空にかつらきの たかまの山に霞たなひく
壬二集中 夕されは空たかくなるかりかねの たかまの山にかゝるしら雲
新千載上 西にのみうつろふ月をしたひきて たかまの山に花をまちける 前中納言為家
壬生二百中 山たかみ雲もかゝらぬいはねにも たかまの山の霜やおくらん
続拾遺夏下 雲まよりみえしほのかに夏の夜の たかまの山の月をこそまて 信実朝臣
新拾遺雑上 夏の日もたかまの嶺の雪ならし たかまの山のおろすかせかな 二条太政大臣
新千載四 思ひやる空こそしらね雲ふかき たかまの山にすめる月かけ 従二位隆教
同恋一 人しれすおもふ心の色ならは たかまの山のたかくやみえん よみ人しらす
風雅雑下 今もなほ松のみとりのいろそへて たかまの山の月そさやけき 高階宗成朝臣
古今六帖 いつはりの神のしるしに今さらに たかまの山のそらをこそみれ よみ人しらす
拾遺恋四 こひわひて我身は雲となりぬとも たかまの山の峰のしら雲 同
続後拾恋 はるかなる世にたくひなき思ひかな たかまの山のうへにすむ月 前中納言定家
新続古今三 恨みてもかひなきものを思ふかな たかまの山にかゝるうき雲 雅宗朝臣室
続撰秋下 秋ふかみよその木の葉もちりぬらん たかまの山の峰のあらしに 平経盛朝臣女
新勅撰恋五 ともすれはむなしき空にたちのほる たかまの山にかゝるうき雲 従二位家隆

續千 恋二　世をいとふ心のうちにすむ月の　たつ[illegible]山のまへに[illegible]　藤原為定朝臣
續後撰 恋一　行くも行かぬも見えぬ[illegible]　たつ[illegible]　蓮生法師
壬生二 巻上　秋かぜに團の扇もわすられて　たつ[illegible]　雅成親王
續古 羇旅　家[illegible]　たつ[illegible]
壬生二 巻上　[illegible]　たつ[illegible]
月清集下　[illegible]　たつ[illegible]
拾玉集 又　[illegible]　たつ[illegible]
壬生二 巻中　[illegible]　たつ[illegible]
續古 秋下　[illegible]　たつ[illegible]　右衛門督通光
新千 恋四　[illegible]　たつ[illegible]　入道二品親王道助
新續後拾 秋上　[illegible]　たつ[illegible]　御製
風雅 恋二　[illegible]　たつ[illegible]　殷富門院一条
新後拾 恋　[illegible]　たつ[illegible]　藤原経衡朝臣
續拾 恋　子規[illegible]　たつ[illegible]　平政村朝臣
新古 恋上　[illegible]　たつ[illegible]　源俊頼朝臣
續拾 恋　[illegible]　たつ[illegible]　左大弁親宗
夫木 恋　秋風は[illegible]　たつ[illegible]　順徳院御製
續古 秋下　さ月[illegible]風は　たつ[illegible]　良暹法師
詞花 恋

新勅 春上　[illegible]風は　たつ[illegible]　権大納言家良
拾遺 恋五　[illegible]　たつ[illegible]
同下　[illegible]　たつ[illegible]
壬生二 巻下　[illegible]　たつ[illegible]
伊勢物語　[illegible]　たつ[illegible]
壬生二 巻上　[illegible]　たつ[illegible]
新千 春上　[illegible]　たつ[illegible]　後照念院関白太政大臣
新續後拾 秋　[illegible]　たつ[illegible]　よみ人しらず
後撰 雑二　[illegible]　たつ[illegible]　後京極摂政太政大臣
續後拾 雑下　吉野[illegible]　たつ[illegible]　前大納言為家
玉葉 秋下　[illegible]　たつ[illegible]　後嵯峨院御製
續拾 恋　[illegible]　たつ[illegible]　権律師実快
新後拾 恋　[illegible]　たつ[illegible]　吉野山の法師
續古 神祇　[illegible]　たつ[illegible]
拾玉集 三　[illegible]　たつ[illegible]
風雅 秋上　[illegible]　たつ[illegible]
伊勢物語　[illegible]　たつ[illegible]　伏見院御製
拾玉集 七　[illegible]　たつ[illegible]

風雅 恋一 [illegible] たつゆゑに [illegible] 藤原隆信朝臣

新古 恋四 [illegible] たつゆく [illegible] 秋かせ [illegible]

玉葉 恋又 [illegible] 前参議 [illegible] 家

続古 秋上 [illegible] 従三位 [illegible]

壬生二 秋上 [illegible] 一村 [illegible] たつ [illegible] 秋の山 [illegible]

拾遺 哀 山川の [illegible] たつ [illegible] よみ人しらず

新後拾 秋上 [illegible] たつ [illegible] 御製

拾遺 雑下 [illegible] 松の [illegible] たつ [illegible]

新続拾 雑 [illegible] 月 [illegible] たつ [illegible] 中務 [illegible] 宗 [illegible]

続古 冬 [illegible] たつ [illegible] 源雅 [illegible] 卿

山家集 下 [illegible] たつ [illegible] 松 [illegible]

新葉 恋三 [illegible] たつ [illegible] 前大納言 [illegible]

新勅 秋下 [illegible] 月 [illegible] たつ [illegible] 従 [illegible]

拾玉集 又 雲 [illegible] たつ [illegible] 山 [illegible]

金葉 哀 神山の [illegible] たつ [illegible] 中務卿 [illegible] 実行

壬生二 中 足曳の山 [illegible] たつ [illegible]

拾玉集 三 住吉の松の [illegible] たつ [illegible]

同 六 都 [illegible] たつ [illegible]

同 二 [illegible] 旅人 [illegible] たつ [illegible] 前大納言為家

続千 秋下 [illegible] たつ [illegible]

拾玉集 四 [illegible] たつ [illegible]

新続古 冬 水莖の [illegible] たつ [illegible] 権中納言雅縁

新拾 冬 [illegible] たつ [illegible] 前大納言為家

月清集 上 [illegible] 月 [illegible] たつ [illegible]

拾遺愚草 上 [illegible] 秋の山 [illegible] たつ [illegible]

新千 冬 [illegible] たつ [illegible] 贈従三位為子

拾玉集 四 秋 [illegible] たつ [illegible]

同 六 [illegible] たつ [illegible] よみ人しらず

拾遺 雑恋 [illegible] たつ [illegible]

風雅 冬 山深き [illegible] たつ [illegible] 前中納言雅孝

新続古 秋上 秋風 [illegible] 萩の [illegible] たつ [illegible] 従三位 [illegible]

拾玉集 四 [illegible] たつ [illegible]

新後拾 恋三 西 [illegible] たつ [illegible] 元方 [illegible]

舞曲 八 [illegible] たつ [illegible]

続後拾 秋上 [illegible] たつ [illegible] 秋 [illegible] 御製

壬生二 [illegible] 下 [illegible] たつ [illegible]

續千載秋上 [illegible] 藤原朝[illegible]

新葉戀五 [illegible]

夕顔

新葉春上 [illegible] 後村上院御製

新後拾遺雑上 [illegible] 源家則

後撰雑三 [illegible] 貫之

拾玉集四 [illegible]

續千載戀二 [illegible]

新葉秋上 [illegible] 中院入道一品

新千載戀 [illegible] 前大納言為世

山家集上 [illegible]

新葉雑上 [illegible] 中務卿宗良親王

拾遺戀上 [illegible]

後拾遺戀一 [illegible]

新古今戀一 [illegible] 土御門院小宰相

續後撰雑上 [illegible]

新後拾遺雑 [illegible] 信阿法師

玉葉雑一 山深や [illegible] の月 後京極摂政前太政大臣

新續古今秋上 [illegible] 前大納言為家

續千載戀二 [illegible]

新葉戀二 [illegible] 藤原師光

新續古今 [illegible]

古今誹諧 [illegible] 藤原隆信

續古今秋下 [illegible] 後小松院御製

續撰戀一 [illegible]

玉葉戀上 [illegible] 關白左大臣

新古今戀上 [illegible]

新葉雑上 [illegible] 壬生忠見

續後撰雑上 [illegible] 九条左大臣

新葉戀四 [illegible]

拾玉集二 [illegible] 後村上院御製

續後拾戀一 [illegible]

長秋詠藻下 [illegible]

大和物語 [illegible] 前大納言為家

玉葉雑五 [illegible] 知家

同一 [illegible] 貫之

同二 [illegible] 相模

風雅 秋下 [illegible] 大江千里
後撰 春中 [illegible]
拾玉集 六 [illegible]
新古今 雑下 [illegible]
新拾遺 三 [illegible]
続古今 冬 [illegible]
玉葉 恋四 [illegible]
続千載 雑下 [illegible]
拾遺 恋 草上 [illegible]
同 [illegible]
壬生二集 上 [illegible]
新続古今 夏 [illegible]
新古今 二 [illegible]
続拾遺 秋 [illegible]
新後撰 雑中 [illegible]
古今 誹諧 [illegible]
拾遺 恋四 [illegible]
新古今 羈旅 [illegible] 如寂上人

[illegible] 前中納言定家 [illegible] 前大僧正慈鎮 前大納言[illegible] 中原行実 式乾門院御匣 よみ人しらず [illegible]

拾玉集 三 [illegible]
月清集 上 [illegible]
同 下 [illegible]
新後拾遺 [illegible]
拾玉集 四 [illegible]
後撰 秋上 [illegible]
続千載 雑中 [illegible]
拾遺 恋三 [illegible]
新古今 秋上 [illegible]
拾玉集 一 [illegible]
山家集 [illegible]
古今 哀傷 [illegible]
拾玉集 四 [illegible]
千載 [illegible]
拾遺 雑春 [illegible]
後拾 [illegible]
金葉 秋下 [illegible]

[illegible] よみ人しらず [illegible] 鴨長明 凡河内躬恒 [illegible] 赤染衛門

風雅 夏　あまそゝく…　たちのぼる…の庭より　前大納言為家
新葉 春下　さくらても…　たかさこの…　後鳥羽院御製
続撰 恋三　あはれ…　たちかへり…　よみ人しらず
玉葉 恋二　なかなかに…　たてる…月…　藤原実方朝臣
拾玉集 六　郭公…　たれ…
同 一　こゝろ…　たち出て…
続拾遺 秋上　すみ…　たびねする秋の夜の月　恵慶法師
拾玉集 二　山さと…　たくひなき…　文貞公
新葉 羈旅　…　たのしみ…　少将
玉葉 雑四　さやかなる月も…　たまくしげ…　西行法師
新古 恋三　…　たよりあれば…　定家
拾玉集 五　みよしの…　たれ…
同 二　夜をこめて…　たちかへる…
拾遺員外 上　…　たまぼこの…
後拾 雑下　…　たゞ世の中に…　前大納言為家
新続拾 雑下　…　たかさこの松の…　藤原為…卿
後古 恋　…　たえはてぬ…　権大納言為家
新後古 羈旅　…　たびの…　津守国冬

新続拾 冬　山風のさえ…　たつた…　藤原為…卿
後古 秋上　山の…　たつた…月…　柿本人丸
山家集 上　…て月…　たつた…
新葉 神祇　…　たのむ…　中務卿宗良親王
後拾 秋下　…　たのむ…　法眼兼誉
新千 秋上　…雲の…月…　たつた…　津守国助
拾玉集 四　…　たび人…
拾遺 恋…　…　たのむ…
後拾 羈旅　…　たのむ…
新続拾 …　…　たのむ…
風雅 雑下　…　たのむ…　太政大臣
拾遺員外 上　…　たのむ…　後嵯峨院少将
風雅 雑上　…　たのむ…　藻壁門院少宰相
玉葉 恋三　…　たのむ…　大江貞房
拾遺 恋二　…　たのむ…　前大納言為兼
拾玉集 一　…　たのむ…　よみ人しらず
拾遺 恋五　…　たのむ…
風雅 雑中　…　たのむ…　後伏見院御製

拾玉集五 あくしほてふみもたえぬるを たゞ月かげにやどりかりつゝ

同四 心あらん人もあかしの浦風に たゞおぼろなる月やみるらん

同又集一 今宵はまた秋のなかばのそらすみて たゞおほかたの月もめづらし

同四 おもひねのゆめもさめぬるあかつきに たゞあはれなる鐘のこゑかな

同 としをへてちぎりしことはむなしくて たゞ[illegible]

同 吉野山はなのさかりをたづねきて たゞ[illegible]

新後拾遺三 思ひやるこゝろもそらにあくがれて たゞおなじさまにかすむ夜の月 六条太政大臣

新後撰六 そなたともしらぬ雲ゐのほどとほみ たゞおもひやる[illegible] 権中納言経平女

風雅恋三 思ひねのゆめもうつゝもわかれては たゞ[illegible] 左大臣中納言

新葉集雑 同じ世にすみながらこそ[illegible] たゞおぼろなる[illegible] 西園寺入道前太政大臣

古今旋頭 [illegible] たゞあはれなる[illegible] 読人しらず

新拾遺中 大井河[illegible] たゞむかしのみ[illegible] 後京極

拾玉集六 秋といへばいつもあはれの[illegible] たゞむかしの秋の[illegible]

拾遺恋一 [illegible] たゞんつきせぬ[illegible] 兼輔卿

後拾遺雑 [illegible] たゞんなからんとおもふ[illegible] 従三位頼政

拾玉集又 [illegible] たゞうちしぐれつゝ 定家

新勅撰恋 [illegible] たゞ[illegible] 二条院讃岐

後撰恋 [illegible] たゞ[illegible] 入道前太政大臣

新後拾遺恋六 [illegible] たゞうらみても秋風ぞ吹く 後西園寺入道前太政大臣

後拾遺恋 [illegible] たゞ[illegible] 右大将道綱母

風雅恋一 [illegible] たゞ[illegible] 永福門院右衛門督

後撰雑下 [illegible] たゞ[illegible] 八条院高倉

拾遺雑恋 [illegible] たゞ[illegible] 読人しらず

新千載恋三 [illegible] たゞ[illegible] 前大納言良冬

新葉雑二 [illegible] たゞ[illegible] 大僧正頼誉

拾玉集六 [illegible] たゞ大かたの秋のゆふぐれ

玉葉恋又 [illegible] たゞ[illegible] 従三位親子

月清集上 [illegible] たゞ[illegible]

拾玉集一 [illegible] たゞ[illegible]

同六 [illegible] たゞ[illegible]

同冬 [illegible] たゞ[illegible]

風雅恋二 [illegible] たゞ[illegible] 従二位親子

拾玉集六 [illegible] たゞ[illegible]

新後撰 [illegible] たゞ[illegible] 道因法師

月清集上 山人の[illegible] たゞ[illegible]

同下 [illegible] たゞ[illegible]

後拾遺恋二　今ぞしるあはでもものをおもひしは　たゞかたの思ひなりけり　左中将師良
拾遺雑下　をしむべき人もなき身の年くれて　たゞ山かげにしをりこそすれ　よみ人しらず
玉葉釈教　もろともにむすびし縁を頼むかな　たゞやすらかに西へゆかなん　従二位為実
閑窓雑下　思ひやる心ばかりはさはらじを　たゞ山のはにかゝる白雲　周防内侍
拾遺恋上　おもひかね妹がりゆけば冬の夜の　たゞ山のはの月ぞみえける　
拾遺賀外上　あはれとも人をも見ずて月をみる　たゞ山のはの秋の夕ぐれ　
壬生二家上　夕ぐれは秋のけしきぞまさりける　たゞ山里のさびしさにして　入道前左大臣
後撰雑上　秋の夜の月の光にさそはれて　たゞ山里はさびしかりけり　
新後古雑　山里は物のさびしきことこそあれ　たゞ山かげのすみかなりけり　大僧正義運
拾玉集二　月影のさやけき夜半にながむれば　たゞやさしき影の身にしむ　
山家集下　ながめつゝ思ひにたへぬ心かな　たゞ浪ばかりさわぐ夜半かな　天暦御製
新古秋下　ゆく秋のなごりもおしき夜もすがら　たゞまつかぜのさむきなりけり　後京極摂政太政大臣
後拾秋下　さびしさは秋の夕べの空なれど　たゞまつかぜに松の声かな　
古今雑上　おもふどちまとゐせる夜は唐錦　たゞまつかぜに音ぞたちける　後入道の次
壬生二家中　ふる雪に山路もみえずなりにけり　たゞ浪ばかりたつぞ見えける　
拾遺賀外上　秋ふかみ身にしむ風のさむければ　たゞ月影のさやけかりける　
拾遺恋中　年ふれどあはれ忘れぬ人もなし　たゞ月ばかりぞかはらざりける　
山家集下　たゞ浪のよする池の汀にぞ　たゞ鶴のこゑや昔のまゝなる　

後撰恋二　たのめつゝあはで年ふるいつはりに　たゞ一すぢの思ひやはする　よみ人しらず
後古今雑　清見潟関の磯辺の秋の月　たゞ見るまゝに浪ぞ立ちける　清原元輔
後撰春　いはねども思ふ心はかよふらん　たゞかゝる身の涙なりけり　よみ人しらず
拾遺恋上　あやしくも物のあはれを知る人は　たゞ一へに風のまゝなる　
拾玉集一　いかにせん山の端出づる月影を　たゞあはれとも思ひ知るらん　
壬生二家下　萩の葉にかゝる白露秋風も　たゞ今年のみ吹かぬものかは　
月清集下　昨日まで秋かと思ふ待宵は　たゞこゝろをつくす月かな　
伊勢物語　おもふこと年のみとせをわびつゝも　たゞこゝろにまかせはてなん　
後古恋四　ありふるもうき世の中と思ひつゝ　たゞこの心ひとつもちぬれ　後入道の子
拾遺負外下　なつくさの茂みにまじる花なれば　たゞこれのみぞ頼まれける　
新後拾春下　山桜木のもとにこそかへらめ　たゞこれのみや限りなるらん　崇徳院御製
後撰恋三　あさましや身をばさてこそ見てしかな　たゞこのひとつ心にぞある　和泉式部
新勅撰　しらぬ世の人をもわれも恋ふる身の　たゞこのはしに心かゝれる　大僧正明尊
拾遺恋中　いまさらに人の心のたのまれて　たゞこの夕べ月の入る方　
風雅恋　思ふとも何か今さら聞かせても　たゞこのくれをまつぞはかなき　太上天皇
後撰恋二　あはれとも恋しとも思ふ身のはてに　たゞひとり寝の夜半ぞかなしき　後入道実教
千載哀傷　たゞさへもあはれなりける秋の夜を　たゞこゝろのまゝにたのむかな　和泉式部
金葉雑下　ねやちかくなりゆく夜半の鹿の声　たゞうつりゆく日かずなりけり　権僧正実行

玉葉 六 冬　うけつくるのなりもえふぞ　たここつかるおもふをまに　従三位為兼

拾玉集 四　あはれなる法をも聞ける種ならで　たここそもんかなしけれ

古今 恋 四　たか里よりかれもてさりと旅　たここそわかれてもつらき　よみ人しらす

後古 恋 二　後の世をたのまぬ人もなき　たこころありぬへき　正三位頼家

後 恋 二　ゑをしたりとおもふものなり　たこころのあしたおもきには　法眼兼豪云

新後 恋 六　うちみてんとかいひなさしに　たここひしきのやまにも猶　寂蓮法師

後撰 雑 下　かなしさは世のつねにもおもふ　たこひしきの峰のあはれな　藤原伊尹 典侍

後拾 尺教　まことの道をおもふ身なれ　陀多謂あるまて〓〓〓　弘法大師

壬生 二 又 上　末乃松上と〓波まつの〓れ　たてよみもあはれなる　

拾玉集 二　海士のかたるは〓〓しつ　たき衣もつみてかりかぬ　

拾玉集 七　人あかぬ人乃心をたのむらん　たき雑衣をかへつる　太上天皇

千載 三　わかれとおもひつるとおもふれ　たきわかるを待ち　右大臣

山家集 下　あはれなる〓〓のはてそ〓〓〓　たきわかるゝかなれを

新古 恋 一　思ひつゝ〓〓〓〓〓〓〓〓　たきわすれぬるかな

壬生 二 又 下　人をのみあはれなくさむ世かな　たきわすれ〓〓〓〓〓　太上天皇

拾玉集 一　さらぬたにつらきあかつきのわかれ　たきわかるゝ世をも恨み

拾遺 悲 上　うちみるときこそみえけれ〓〓　たきわかぬめる〓〓をも所

玉葉 恋 三　まてまつとかなしみの夜をさまさて　たきわすれて〓〓〓〓〓〓　中納言家持

拾玉集 一　ちらぬまも〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓　なかき椎とこそ山へ入りけり

新古 恋 四　何事もおもふ人なるけく世中に　なかきさりもの秋風ふけの袖　侍従

月清集 上　思ひつゝ〓〓ぬ宿の花ざかり　なか月の葛ふきて風

拾遺 恋 上　さしかへて〓〓の月光には　なか秋風ぞさすさて山

月清集 上　夏まても〓〓の扇を君もし　なか秋風の〓〓〓〓〓〓

拾玉集 又　〓〓なみ〓〓の〓〓〓〓〓〓　なか秋かりをさそふ月　左大臣

同 四　〓〓〓〓月をも〓〓〓〓〓　なかわかるゝ〓〓〓〓〓〓

同 七　〓〓〓〓〓山風の〓〓〓〓〓　なかおかるゝ〓〓〓〓〓〓

拾遺 恋 上　つれても〓〓〓〓〓〓〓〓　なかわかれ〓〓〓〓〓〓

後承　あかき世を〓〓〓〓〓〓〓　なかわかれてぬ命〓〓

拾玉集 一　うさ〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓　なかさうりて〓〓〓〓〓

壬生 二 又 中　秋風の吹〓〓〓の月のかも　なか里〓〓〓〓〓〓〓の宿

拾玉集 又　〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓　なかさかれ世は〓〓〓〓〓

同　なかむれは〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓　なかきれいや〓〓〓〓〓〓　式部卿

後撰 雑 別　いさ〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓　なかめの〓〓〓〓〓〓　源ま〓〓

新葉 雑 下　世〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓　なかめの〓〓〓〓〓昔を　〓〓〓宗良親王

風雅 雑 下　〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓　なかめはつるこの世を〓〓〓　俊成卿女

後 拾 雑 下　〓〓〓〓〓〓〓月の〓〓〓　なかめよき人のもりの〓〓　藤原〓〓〓〓

玉葉十四 ちらさらむ花のかげに世をわすれ たちかへりぬる別 上東門院宰相
続千載四 いかにせん宿はかもとにちらされて たえまもなかるべき 前秋門院
千載春上 春の夜は紀の国の色をさかりなれ たがみそぎともしる 藤原季通朝臣
拾玉集六 月も花も啼るものゝうきよの宿 たのめ人はこそ先にちるらむ 津守国助
続千載雑秋 今はとて心にかけて入る人の たのみこそ心にまかせめ
拾玉集四 大井川なみよりみちてもみぢ葉の たのまぬ身なる錦ぞかゝる
同 浦ともに人のわかれもとて残る たのむものゝいはぬ影ぞ
続古今 なかぬとも今は分からぬほとゝぎす たのもしの宿の秋ぞおもふ 小弁
同六 はつしもの夕べの宿の夏衣 たびねかなしの夜の空
玉葉冬 岩の上に帰る浪の音をうつ たびねかな今宵の雪 俊頼朝臣
拾玉集一 冬きては行人もなしとなりにけり たびの宿の床はらふ 常盤井入道前太政大臣
同六 されば此の雑ふることし たび時雨そふ秋のいほり
月清集 月はよもすがらみのせずし寒く たび時雨の秋ぞおもふ
拾玉集一 やみもとの雁なき声ぞきこゆ たびの空へてぞ峰の山
同七 山わかれて若ゝ郭公 たびのこゝろをうし 慈鎮
風雅雑 ふるさとの人もなき道なり たびの身にしみて露 慈鎮上人
山家集上 そでぬれてしほれつゝ さすかに山のはるを来み たびのうちに月の夜の
新拾遺四 嵐吹峰の木の葉のちるに たびのうちに月の夜の 性感法師

新拾遺四 菊の花ぬれつゝそひて見ぬ人 たびのゆくへの宿に 津守国冬
玉葉十一 世々かはる山の月の宿をなかめ たび一夜のあけぼのに 和泉式部
風雅秋中 月影のやみの宿に秋の空 たびの夜の月のまどに 従二位為子
新拾遺十二 山さとに秋のはつかせ吹に たびの夜あけの末ぞかり 大江正言
玉葉又 世中はいつもかはらぬ花なれば たびの夜に今宵かな 権大納言行成
新後拾遺六 あらし吹く秋の時雨 たびゆくこゝろそうき 読人しらず
壬生二百首中 こゝろなき身にもあはれは郭公 たびねの夜の宿の夢
玉葉六 池水にうつる影も郭公 たびのこゝろの宿ぞ
新拾雑上 みしよにもかはらぬ声は時鳥 たびの身のけしきそ 後鳥羽院御製
新拾遺五 いつまでも月の秋の郭公 たびのころもに月をそ
続後撰 橘の香をなつかしみほとゝぎす たびのこゝろのいかならむ 待賢門院堀河
拾遺又 夕まぐれかたらふ郭公 たびの夢の草のまくら 宗尊親王
新拾遺十一 あはれなる秋の月に 一夜の宿に 藤大納言三位
新後拾遺十 人ならぬ身にもあるらん たびのまくらの旅 為世
拾遺集十 君がためひけばよそにかれて たびの一夜の露 法眼…
新拾遺上 …

夫木 [illegible] 和泉式部

新後撰 [illegible]

長秋詠藻上 [illegible]

万葉 [illegible]

拾玉集 [illegible]

同 [illegible]

新古 [illegible]

新後撰 [illegible]

玉葉 [illegible]

拾玉集三 [illegible] 大江嘉言

同 [illegible] 皇太后宮大夫俊成

新続古 [illegible]

続拾遺 秋下 [illegible]

拾遺 [illegible] 桜 [illegible]

新拾遺 [illegible] 山階入道左大臣

続千載 [illegible]

続後撰 [illegible]

続古 春上 [illegible]

月清集上 [illegible] 皇太后宮大夫俊成女

同 [illegible]

新古 冬 [illegible]

後撰 恋二 [illegible] 蓮生法師

新続古 [illegible]

新千載 [illegible]

続後拾遺 [illegible]

風雅 恋一 [illegible] 贈従二位 [illegible]

続拾遺 [illegible] 大弐三位

古今 恋三 [illegible]

続千載 [illegible] 源義行

古今 春下 [illegible] そせい

続古 雑上 [illegible] 素暹法師

拾遺 [illegible]

月清集上 [illegible]

新続古 [illegible] 前中納言定家

後拾雑五　谷陰やしたはふくすのくちはてゝ　たれよひかれて出るさくらん　源兼氏朝臣

後拾遺恋　山さとにちりとてぬへき花ゆへに　たれとかおもひて人のまつらん　源道済

新後撰春上　鶯のなきつるこゑにさそはれて　たれかは来へきはるのやまかけ　源俊頼朝臣

後古秋上　白露の玉ぬく萩の花の下　たれかわけゝんさをしかのつま　左京大夫顕輔

金葉恋　待かねてさよもふけゆく山の端に　たれをゝしむる月の影そも　源よりつね朝臣

詞花恋下　まつらんとおもふ心のかよひちは　たれにとはまし人のすむ海　赤染衛門

拾遺恋一　みな人のしらぬおもひをいかにして　たれいふ事もなくてかくらん　よみ人しらず

新勅撰　あはれなりわかみのはてや浅みとり　たれとかほかにとふ人もなし　権中納言長方

拾遺哀下　ものゝふの八十宇治川の網代木に　たれとおもひてひとりぬるらん　寛覚

万葉雑四　ますらをのさつやたはさみ立むかふ　たれとかよはむ春日野の原

風雅雑下　たのむへき人もなき世にいかにして　たれとしめてか月をみるらん　仁和寺入道法親王

新後撰雑上　みしまえやこほりもとけぬ水の上に　たれとかすみて月をみるらん　前大僧正慈鎮

拾遺恋二　女郎花おほかる野へにやとりせは　たれとかへらん秋のゆふくれ　よみ人しらず

風雅雑上　昔みしあはれはそれもおなし世に　たれとてよその月を見るらん　藤原道経

拾玉集六　吉野山花のさかりをよそにみて　たれにかたらん月の夜の空　従二位家隆

続千恋四　ゆめにのみ逢みる人の袖の上に　たれとふたりの月やすむらん　従二位為家

新続古秋上　何事もおもひすてゝも世の中に　たれとともにかあきの夜の月　前大僧正果守

後千雑下　今はまた八十あまりのおいのみに　たれをみよとかつかへはてけん　丹波長有朝臣

拾遺恋四　うらむへきかたこそなけれ夏衣　たれしるへしてとはぬなるらん　中務

後古恋下　いまはとてたのむの雁もうちわひぬ　たれにつたへてねをもなくらん　読人しらず

新千恋一　下ひものむすふ契りはよそにして　たれにもとけぬおもひなるらん　躬恒

詞花雑上　谷かはのなかれてきえぬ水のあわに　たれぬれきぬをきせむとすらん　藤原隆季朝臣

拾玉集二　紫草の根にかよひける人ゆゑに　たれぬのきしの浦とよふらん

千載恋上　うきにしもおもひかへさぬ心かな　たれをとおもふ中のかよひち　源通信

壬二集中　七月や暁さむくなりぬなる　たれとちきりしかりそめの宿

後撰雑三　かつきするあまのいさりの火をみれは　たれとふらひしかりねなるらん　よみ人しらず

同四　まつ人もこぬ夜の月にあかしつゝ　たれとひとりの涙なるらん　同

月清集五　花は吉野紅葉は竜田秋の野に　たれとかはみん春の曙

金葉恋　今はとてわかるゝ袖のなみたこそ　たれとかさねて恋しかるらむ　律師増覚

古今秋上　もみちはのちりてつもれるわか宿に　たれをまつ虫こゝらなくらん　よみ人しらず

後撰秋上　秋の野のきえしも露のおきてゆかは　たれとかまつ虫こゝらなくらん　同

後古雑中　ときしもあれ世はうき人の住まつに　たれをとてかは雲のかよはん　源俊頼朝臣

後拾恋四　人こそはしのふもちるもおほからめ　たれをとふかは秋の夕暮　順徳院御製

続後撰秋下　あさ霧の立田の山のもみちはの　たれのゆかりと秋風のふく　前参議雅経卿

新拾遺恋上　金かねのかはらぬちきりたのみつゝ　たれゆへとにかしのひわふらん　坂上是成

拾遺雑上　ちとせふるまつかさきをもかけとせは　たれかやとりのくもゐをかみん　紀朝臣貫之

金葉秋　ときはなる梅のたちえのふるさとに　たれかやまれ袖とふらん　修理大夫顕季

山家集上　ぬしとてもあはれちりなはいかにせん　たれかいりてまつへきらん　参議雅経

新拾雑中　家を出て世をはなれんと思へとも　たれかうけよの柱のもとにつかむ

新葉恋二　ながらへてしらぬまてたに　たれかしてせの社のもとにつかむ

拾玉集七　今朝の世をさそひ来る身もあはれなり　たれもみな今は我身そ

千載恋傷　あはとなれはかてそふかき　たれかいまはいかにふかまり　源実基卿

新千雑下　なきのかすれはかれぬもとを　たれかいふそ身の風とするらん　よみ人しらす

古今雑下　さくらちるこのしたかけもかはらねは　たれかいふにもしれるそよ　藤原おきかせ

新古雑下　おもひつつしらくもかかるやまさくら　たれかいふそ千代はるまとを　権中納言

拾遺恋上　いつかまた秋の夕の雲なれとも　たれかいふともそのつちなき

同中　あふことはありのまゝにて我ゆゑは　たれかいふとも我ならで山陰　兵部卿

拾玉集又　君こそはおもひもかけぬ月もかな　たれかいふとも身のうき誰を

玉葉雑又　わかれてのあとのなけきもことはりに　たれかいふとも聞しなきいふも

拾遺恋四　ひとりしてみるもつらきをあかつきの　たれかはそれとおもひしらなん　小大君

詞花雑下　さえわたるみねのあはれとうきものを　たれかはたれとよのひとつなき　大納言成通

玉葉恋三　たそかれのつらきわかれそあらはれん　たれかいふらん宵の月白雲　実家

山家集上　あはれとはおもひもかけぬ山のはに　たれかはいはむ月のあかつきの秋

拾遺哀上　ちるはなをなけきしひとはこのもとの　たれかは月のあきはてゝなき　蓮生法師

新千秋下　月影のあきのねさめもとはれぬも　たれかかはらんこのさまそきとも

拾玉集三　なにとなく今はなきよのおもかけを　たれかこのやまにまつらん　従二位家隆

玉葉雑又　あはれなるおなし心のかよひてそ　たれかをたれかおもひはてん　中納言定家

千載秋上　なかめやる空のけしきもあはれにて　たれかはそれとあはれをもしる

新古恋一　あくかれて思ひにあまるよのなかに　たれかはそれと待つきにせん　よみ人しらす

新勅恋四　ゆく末のなさけをかけて身はさてや　たれかいにしへの流をさそひけん　同

続後撰冬　ふる雪のあしたもみゆる冬の空　たれかいはまし秋のよのやみ　西行法師

拾玉集又　おもひつゝ雪のみむかふ夕暮は　たれかいはんねやの山のに

夫木　これとてやうきよの末も絶はてゝ　たれかはとはん月の光に

月清集上　いはれてもわかぬ夜のそらにしれ　たれかはしるひとつの月を　よみ人しらす

続後撰恋又　こゝろさしあはれの末にすむ月の　たれかとはんの秋風をなき

山家集下　まつ人のかよはぬみちの雲はれて　たれかしのはむ霞のかよひ

壬生二見中　おもひやるとも人しらぬ心の　たれかいはんねや秋のうへの

拾遺集外上　わすれぬもおもひとなりてあはれなる　たれかいはんおもひのそらに

続後拾秋下　秋のよの月をかけてもかなしきは　たれかとて袖のうへにけん　是則

続古雑中　かけてやはゆめのうつゝもさためなき　たれかとはんの袖のぬれなん　入道前関白家

新後恋三　君とまたあひみてのちはあはれなり　たれかはふかき袖のはなれを　従二位家隆

金葉雑上　あまの河かよふうき木のおちきる　たれかつみとかしのつきき　僧正行尊
古今物名　梅かゝをそてにうつしてとゝめては　たれかゝりとおもひつけけん　よみ人しらす
拾玉集六　おのゝ山へつゝきのさとにゝほひきて　たれかみてしも月をまつらん
玉葉秋下　秋きては我宿の山のもみちちる　たれかるゝけふのつゆおきて　権中納言宗家
拾遺雑秋　ちるやちるやかせにみなとをふきつらん　たれかなかなかもあらなと思ふ　人まろ
新古秋下　秋ふかき鳥羽のかせすゝしくねさめして　たれかこひねの衣うつらん　式子内親王
拾玉集二　年ふれてちきりしまつの松を　たれかゆふ日をおもひ初けん
千載雑上　山さとの松の嵐をまちわひて　たれかは秋の月をみるらん　藤原基俊
後撰恋二　立よらんかけのたのみもなきものを　たれかあふさかの関をこえまし　小八条御息所
後古秋下　ゆふされは人のこゝろもうつろひて　たれかおもひの菊　亭子院御歌
大和物語　ゆきてみぬ人のためにもおもひしる　たれかしのふのさとをとはまし
狭衣四　みよしのゝ山のかひより　たれかあひみむひとのおもひを
新古恋五　恋すれはのちのあふせもたのまれす　たれかまことの言の葉のこる　よしたゝ
御法　秋風にたえぬまつの露の身を　たれかたのまむ世のならひかな
古今恋　足曳の山ほとゝきすなきわたる　たれかまつらんねやのうちに　よみ人しらす
後撰恋　足引の山郭公こゑたてゝ　たれか涙をさそふなるらん　同
新勅撰恋　風のうへにありかさためぬちりの身は　たれかこゝろのありかしるへき　二条太政大臣
後千恋　ことのはにおもひやるとも　たれかはしらん今はかきりの　藤原資良

古今冬　梅の香のふりおける雪にうつりせは　たれかことことわきておらまし　紀つらゆき
拾遺恋上　おもひやる山路のかたも月かけに　たれかはひとり月をみるらん
伊勢物語　秋の夜のちよをひとよになすらへて　たれかとひくるものならなくに
後撰拾遺　秋の夜の浅茅か露もあはれなり　たれかこの世をたのみはてまし　よみ人しらす
壬生二百下　我やとの花のさかりはしかみても　たれかさかりにとはんとすらん
拾遺貫之上　あしひきの山ほとゝきすなくなれは　たれかききてはなとすらん　大納言経信
壬生二百中　ゆふされはゆふへのそらもかはれとも　たれかみやまの山のはの月
後千秋下　秋の野の花のいろいろをみてしかな　たれかしらぬの衣うつらん
拾玉集六　春の日を山のかすみにへたてゝは　たれかともをもまつのはのちらは
月清集下　さらぬたに秋のゆふへはかなしきに　たれかは袖のつゆもかはかん
拾遺恋上　ながめつゝおもひもあへぬ秋風の　たれかなかむる袖の月
月清集下　山ふかみ雪のうちにもはるはきて　たれかおもふらんしつのおたまき
山家集下　みやこにはいまそみえぬはるかすみ　たれかつたへてことつてやらん
拾遺恋上　今はとてわかれしときのゝちのよを　たれかたのみてゆくへしらまし
新勅撰恋四　梓弓ひくまの池のうきぬなは　たれかさゝかにことやとはまし　よみ人しらす
蜻蛉　ゆくもかへるもわかれはいなはしも　たれやこのめのうつりかはらん
後撰雑上　布引のたきのしらいとうちはへて　たれかはふともみたれけるかな　在原行平
壬生二百下　うきこともわすれはてなむふるさとの　たれ山里にすみなれし人

新後拾 秋雑 秋くれて忘れぬ[illegible] たれはらふらん[illegible] 武[illegible]有視

壬生二 冬上 [illegible] たれ[illegible]らん

同 [illegible]て山桜[illegible]玉柳 たれ[illegible]らん 後京極摂政太政大臣

新後撰 雑中 [illegible] たれ[illegible]らん [illegible]次

後撰 秋上 [illegible]秋の[illegible] たれ[illegible] 同

同 秋中 [illegible]草[illegible] たれ[illegible] 後京極摂政太政大臣

新千 秋下 [illegible]月の[illegible] たれ[illegible]らん 蓮生法師

続後 秋上 [illegible] たれ[illegible]らん 漸空上人

新千 冬 みせ[illegible] たれ[illegible]らん 従二位家隆

新後撰 秋下 [illegible] たれ[illegible]らん

拾遺 夏上 [illegible] たれ[illegible]らん

詞花 秋 [illegible] たれ[illegible]らん 楊柿元

壬生二 冬上 [illegible] たれ[illegible]らん

風雅 冬 [illegible] たれ[illegible] 法源律師

拾遺 恋下 [illegible] たれ[illegible] 二条院讃岐

新千 冬 [illegible] たれ[illegible] 真昭法師

後拾 恋 [illegible] たれ[illegible]

後拾 冬 月の[illegible] たれ[illegible] 中務卿

続拾 秋下 [illegible] たれ[illegible] [illegible]成範

新古 秋下 [illegible]月[illegible] たれ[illegible]らん [illegible]

新古 雑上 [illegible] たれ[illegible] 宗良親王

千載 雑上 水[illegible] たれ[illegible] 六条右大臣

月清集 下 高砂の尾上の[illegible]秋萩 たれ[illegible]

新古 恋一 [illegible] たれ[illegible]らん 人丸

新古 恋一 [illegible] たれ[illegible] 紀淑文

拾玉集 六 [illegible] たれ[illegible]

玉葉 恋一 [illegible] たれ[illegible]

新拾 恋四 [illegible] たれ[illegible]

続拾 雑一 [illegible] たれ[illegible] 小式部

玉葉 恋三 [illegible] たれ[illegible]の月 [illegible]

壬生二 冬中 [illegible] たれ[illegible]

新後撰 恋三 [illegible] たれ[illegible] [illegible]

続後拾 恋 [illegible] たれ[illegible]

同 雑下 [illegible] たれ[illegible] 行念法師

同 哀傷 [illegible] たれ[illegible] [illegible]

風雅 恋 [illegible] たれ[illegible] [illegible]

続後拾遺恋三　[illegible]　たれゆへ[illegible]　前参議能清
山家集上　[illegible]　たれも[illegible]
新古今恋四　名残[illegible]　たれゆへ[illegible]　法橋行遍
続拾遺恋一　今は[illegible]　たれゆへ[illegible]　九条右大臣女
拾遺恋五　[illegible]　たれみよと[illegible]　左京元方
新続拾遺雑下　今は世に[illegible]　たれみよと[illegible]　陽子内親王
壬生二百上　[illegible]　たれみ[illegible]　従二位家隆
続古今夜　[illegible]　たれす[illegible]　従二位家隆
風雅恋中　[illegible]　たれか[illegible]
壬生二百中　[illegible]　たれか[illegible]　安嘉門院四条
風雅恋二　[illegible]　たれか[illegible]　藤原俊成女
続後撰恋五　[illegible]　たれか[illegible]
大和物語　[illegible]　たれか[illegible]　法印定円
新勅撰雑一　[illegible]　たれか[illegible]　後鳥羽院御製
新続古今秋上　[illegible]　たれか[illegible]　大納言三位
拾玉集四　[illegible]　たれも[illegible]
千載哀傷　[illegible]　たれも[illegible]　二条院讃岐
玉葉秋下　秋の[illegible]　たれも月[illegible]

続千哀傷　[illegible]　たれも[illegible]　俊明卿
新続拾雑下　[illegible]　たれも[illegible]　太宰大弐重家
拾玉集四　[illegible]　たれも[illegible]
新古今哀傷　[illegible]　たれも[illegible]　小野宮太政大臣
新続古雑下　[illegible]　たれも[illegible]　寂然法師
拾遺恋五　[illegible]　たれも[illegible]
新拾雑中　[illegible]　たれも[illegible]　平恭時朝臣
新続雑下　[illegible]　たれも[illegible]　法印兼雅
続拾五哀　[illegible]　たれも[illegible]　西行法師
続古哀傷　[illegible]　たれも[illegible]　法皇京極准后
千載恋三　[illegible]　たれも[illegible]　大納言為家
新続古恋上　[illegible]　たれも[illegible]　従二位家隆
続撰雑四　[illegible]　たれも[illegible]　中務卿宗尊親王
拾遺恋上　[illegible]　たれす[illegible]
続拾遺恋三　[illegible]　たれす[illegible]　大納言頼宗
拾遺雑恋　[illegible]　たれそ[illegible]
拾遺外下　[illegible]　たれそ[illegible]　大中臣輔親
藤重衣集　[illegible]　たれ[illegible]

夕顔　ひかりありと見し夕かほのうはつゆは　たそかれ時のそらめなりけり

新古今夏　一こゑはおもひそあへぬ郭公　たそかれ時の雲のまよひに　八條院高倉

続古今秋上　[illegible]　たそかれ[illegible]秋の[illegible]　太上天皇

続後撰恋下　[illegible]　たそかれ[illegible]　貫之

月清集上　[illegible]　た[illegible]

山家集上　[illegible]　た[illegible]

新千恋一　[illegible]　た[illegible]　藤原師久

壬生二百中　[illegible]海の[illegible]　た[illegible]

拾遺愚草上　[illegible]　た[illegible]

新古雑中　[illegible]　た[illegible]　二條関白内大臣

続千恋一　[illegible]　た[illegible]　藤原[illegible]

新千恋一　[illegible]　た[illegible]　紀行春

続拾遺[illegible]　[illegible]　た[illegible]　[illegible]従

続後撰[illegible]　[illegible]　た[illegible]　中務

続後拾遺[illegible]　[illegible]　た[illegible]　[illegible]玄雄

千載恋三　[illegible]　た[illegible]　藤原時昌

山家集上　[illegible]　た[illegible]

風雅冬　[illegible]　た[illegible]　[illegible]

山家集下　[illegible]　た[illegible]

千載恋下　[illegible]　た[illegible]　源仲綱

続拾遺[illegible]　[illegible]　た[illegible]　[illegible]駿河

同　[illegible]　た[illegible]　[illegible]

拾玉集二　[illegible]　た[illegible]

拾遺[illegible]　[illegible]　た[illegible]

新続古[illegible]　[illegible]　た[illegible]　惟明親王

古今恋五　みわの山いかにまち見ん年ふとも　たつぬる人もあらしと思へは　伊勢

拾遺愚草員外上　[illegible]　た[illegible]

新後撰羇旅　[illegible]　た[illegible]　武蔵[illegible]

風雅恋上　[illegible]　た[illegible]　紀貫之

新拾遺[illegible]　[illegible]　た[illegible]　[illegible]

新後拾遺秋上　[illegible]　た[illegible]　常盤井入道太政大臣

新千秋上　[illegible]　た[illegible]　[illegible]定為

詞花別　[illegible]　た[illegible]　法橋有禅

拾遺別　[illegible]　た[illegible]　よみ人しらす

古今秋下　神なひの山を過行秋なれは　たつた川にそぬさはたむくる　[illegible]

続後拾遺秋下　[illegible]　た[illegible]　刑部卿[illegible]

壬生二乃上　神なひのみむろの山のしくれにや　たつたのひめもそめはしむらん

拾玉集四　またさかりみゆる花のいろゝに　たつたひめかさしの玉の緒柳

同三　うれしさをつゝむ袖のいろことに　たつた河原の柳かけ

同　春風のいつまてふかむ山の花　たつた河原の柳さくらか

壬生二乃中　秋ふけはかすみにこもる神なひの　たつた河原の露の夕くれを

同　あきのいろの秋の錦にまかふらん　たつたの錦ひてかけ

續古冬　あられふる冬の日影のさむけれは　たつたの川は瀬も氷りけり　躬恒

壬生二乃中　ふしみ山のゆふへの風の〔illegible〕　たつた川にうつるもみちは

後拾遺秋下　嵐ふく三室の山のもみちはゝ　たつたの川の錦なりけり　能因法師

金葉冬　もみちはをあらしの山にさそはれて　たつたの川にちりや〔illegible〕　大納言資〔illegible〕

續拾遺冬　くれなゐのいろにいてゝや〔illegible〕　たつたの川の〔illegible〕　伊勢大輔

拾遺雑秋　神なひのみむろの岸やくつるらん　たつたの川の水のにこれる　高向草春

新古春上　かつらきや高間の桜さきにけり　たつたのおくにかゝる白雲　寂蓮法師

後撰秋下　かりかねのなきつるなへにから衣　たつたの山はもみちしにけり　よみ人しらず

玉葉秋下　あさなけにきりたちわたるから衣　たつたの山はもみちしぬらし　赤人

續千雑上　花のころおもひたちてしから衣　たつたの山のやまさくら花　権中納言経信

古今雑下　たかみそきゆふつけ鳥かから衣　たつたの山にをりはへてなく　よみ人しらず

大和物語　たかみそきゆふつけ鳥かから衣　たつたの山にをりはへてなく

續古羈旅　夜をさむみはやたちくれはしら雲の　たつたの山をよはにこゆらん　素性法師

後撰秋下　かりなきてさむきあしたの露ならし　たつたの山をもみたすものは　よみ人しらず

新拾秋下　これやこの〔illegible〕　たつたの山のもみちはの色　人丸

新古春上　ゆふされは〔illegible〕　たつたの山の〔illegible〕　中納言家持

新勅羈旅　あらしふく〔illegible〕　たつたの山のもみちはを〔illegible〕　法眼宗円

古今春下　花のちることやわひしき春霞　たつたの山のうくひすの声　藤原後蔭

續拾羈旅　しら雲の〔illegible〕　たつたの山の〔illegible〕　前大納言為家

金葉春　さくら花〔illegible〕　たつたの山の〔illegible〕　権中納言顕〔illegible〕

新古秋下　ちらねとも〔illegible〕　たつたの山の〔illegible〕　祝部成仲

續後拾春上　つらしとも〔illegible〕　たつたの山の〔illegible〕　二條院讃岐

續千春上　今さらに〔illegible〕　たつたの山のみねのしら雲　贈従二位為子

壬生二乃上　あさきりも〔illegible〕　たつたの山の〔illegible〕

後撰秋下　秋の〔illegible〕　たつたの山の〔illegible〕　よみ人しらず

拾玉集七　〔illegible〕　たつたの〔illegible〕

同　山路ゆく〔illegible〕　たつたの〔illegible〕

同　〔illegible〕　たつた川〔illegible〕

拾遺愚草　〔illegible〕　たつた川〔illegible〕

同下　〔illegible〕　たつた〔illegible〕

新勅秋下　[illegible]　たつ[illegible]　[illegible]雅経

月清集　一村の[illegible]　たつ[illegible]

後撰秋上　松の音に風のしらへをまかせては　たつたひめこそ秋はひくらし　壬生忠岑

続古雑中　[illegible]　たつそなく[illegible]　[illegible]上天皇

古今大歌所　あふみより朝たちくれはうねのゝに　たつそなくなるあけぬこのよは

長秋詠藻　[illegible]　たつ[illegible]

続古夏　[illegible]　たつね[illegible]

玉葉恋　[illegible]　たつね[illegible]　洞院摂政左大臣

壬生二[illegible]中　[illegible]　たつね[illegible]

拾遺恋上　[illegible]　たつね[illegible]

拾遺秋　[illegible]　たつね[illegible]

続拾遺恋　[illegible]　たつね[illegible]

新古今上　[illegible]　たつね[illegible]

続古今下　[illegible]　たつね[illegible]

新葉雑上　[illegible]　たつね[illegible]

長秋詠藻　[illegible]　たつね[illegible]

続拾遺恋　[illegible]　たつね[illegible]

続古恋下　[illegible]　たつねぬ[illegible]　[illegible]中宮

山家集　[illegible]　たつねぬ人[illegible]

玉葉春　[illegible]　たつねぬ人[illegible]　康資王母

風雅冬　[illegible]　たつねぬ人[illegible]

山家集下　[illegible]　たつね[illegible]山郭公

拾玉集四　[illegible]　たつね[illegible]

拾遺恋上　[illegible]　たつね[illegible]

同　[illegible]　たつね[illegible]

古今雑上　[illegible]　たつね[illegible]　在原[illegible]

藤葉　[illegible]　たつ[illegible]

新葉[illegible]上　[illegible]　たつね[illegible]　[illegible]親王

風雅[illegible]　[illegible]　たつね[illegible]　康資王母

月清集下　[illegible]秋の月　たつね[illegible]

後撰恋二　[illegible]　たつね[illegible]

新後[illegible]　[illegible]　たつね[illegible]　[illegible]

続拾遺[illegible]　[illegible]　たつね[illegible]　[illegible]

拾玉集二　[illegible]郭公　たつね[illegible]

続拾遺[illegible]　[illegible]　たつね[illegible]　[illegible]

詞花集　[illegible]　たつ[illegible]　[illegible]紀伊

新拾遺 秋下　[illegible]　寂蓮法師

新葉 冬　[illegible]　[illegible]

同 雑中　[illegible]　[illegible]

金葉 冬　[illegible]　橘成元

手向　[illegible]　[illegible]

若菜 上　[illegible]　入道前太政大臣

続千 冬一　[illegible]　[illegible]

新拾 冬一　[illegible]　[illegible]

続拾 冬二　[illegible]　定顕法師

新後拾 冬　[illegible]　道曉法師

新古 冬二　[illegible]　藤原秀能

新続古 冬　[illegible]　[illegible]

新千 冬一　[illegible]　前大納言[illegible]

新後拾 冬一　[illegible]　[illegible]

新後 冬一　[illegible]　大蔵卿[illegible]

後撰 冬一　[illegible]　[illegible]

同　[illegible]　同

新拾 冬二　[illegible]　[illegible]

続千古 冬二　[illegible]　正三位知家

新玉集 六　[illegible]　深守法親王

新後拾 雑秋　[illegible]　[illegible]

同 冬一　[illegible]　上野太守[illegible]

新葉 冬一　[illegible]　藤原[illegible]

後撰 冬二　[illegible]　[illegible]

古今 哀傷　[illegible]　伊勢

拾遺 賀　[illegible]　[illegible]

新勅 雑三　[illegible]　[illegible]

明石　[illegible]　[illegible]

続後撰 冬　[illegible]　[illegible]

拾遺 冬　[illegible]　[illegible]

拾遺 夏 上　[illegible]　[illegible]

壬生二 冬中　[illegible]　[illegible]

新葉 冬上　[illegible]　[illegible]

拾遺 夏 下　[illegible]　[illegible]

金葉 冬 上　[illegible]　源俊頼朝臣

千載雑中　小山田の庵ちかく焼火のけふりかな　たえまにもえぬ夕くれのそら　俊恵長

古今春下　うつせみのよにもにたるか花さくら　たつともやむともしらぬ花の香　よみ人しらぬ

新拾遺一　あし鴨のむれゐる池の氷波の　たつ方もなき春のさゝなみ　山階入道左大臣

新古今冬　ちりかゝる紅葉なかるゝおほゐ河　たつと見るまにくるゝあきかな　前大僧正慈鎮

同雑別　あはれとも雲ゐにきえよとまらぬに　たつやおもひのけふりなりけり　兼昭法師

続拾遺秋上　かひかねをさやにもみしか　たつ方しらぬ秋のゆふくれ　源兼長

新古今冬　なけきつゝ涙そ空にみちぬらん　たつさきもなき秋の夕きり　宮内卿女王

壬生二集中　たちよれはあひてかはらぬかけなれや　たつあさ風に花そちりける

拾遺別本　ちらさなんいまは花とも思はれす　たつはる霞こゝろあるらし　清原元輔

山家集下　松にまつかけてなひかぬ秋の山　たつきもしらぬ人の秋上に

拾玉集四　かくれなくたてる松かね見わたせは　たつきりのまにきえぬ山もと

月清集下　しほかせに檜原の木すゑ吹しほり　たつ浪もなき夕くれのそら

拾玉集六　うちしきる涙にまよふかりかねの　たつきもしらぬ山もとの宿

新拾遺雑上　雲かゝるなかの遠山のけふりに　たつ白雲のあはれさりけり　法皇大我寂蓮

拾玉集四　花の色もをしむ山の木のしたに　たつ白浪の春ひとつかな

同七　たちならふ山の夕日の影きえて　たつ白浪のかゝるはれけり

同三　住吉の松のもとかけてなかめやる　たつ白波のあはれなりけり

続拾遺二　いつとてもなき神の名そふる　たつ春かすみみえにけるかな　よみ人しらす

金葉冬　ひとりのみ門せまくしてあかしつる　たつ霜月のあけかたの空　宮内卿月清

新千載中　わきもこかきぬれてかゝるから衣　たつたひめこそ秋をまつらめ　津守国経

新後拾遺雑上　朝戸あけて霞の衣ほしつらん　たつとはしらぬ秋風の音　前大納言忠良

続後撰冬　まきのやにあらしやはらふから衣　たつた山風さむくなるらん　衣笠内大臣

新古雑別　きりきりすなくやしも夜のさむしろに　たつたの山もとうつ衣　よみ人しらす

拾遺古今　むしのねも秋の夕くれかなしきに　たね蒔くことや物うかるらん

後拾遺羇旅　あさ秋の松の夜くさのかけ見えて　たねもしられぬ草のしけみか　大僧正證観

長秋詠藻上　槙さく山路の雲にまかふらん　たねまきしても春の山風

金葉秋　鴫のふす雁の小田に風わたる　たかねの秋のかりかねのこゑ　津守国基

詞花秋　萩のはにすゝむる風の音きけは　たかつのやまのあきのゆふくれ　橘元任

拾遺雑秋　わかやとのをはなかすゑの夕露に　たかつけし名のをみなへしかな　よみ人しらす

続後撰秋上　たかさこのをのへの鹿もなきぬなり　たかまとの山の秋のはつ風　源清家朝臣

新拾遺雑上　秋さむみ夜やふけぬらん袖のうへに　たかまくらにもやとる月影

壬生二集中　ほのかにもまたしら露の秋風に　たかまのやまの夕くれのそら

拾遺雑秋　秋風のすゝしき夜はのこゑすみて　たかさこのをのへの秋の衣うつ　平兼盛

新拾遺秋上　須磨の浦にしほやくけふりなひきつゝ　たかまとのやまのくれてゆく秋　赤人

壬生二集中　一かたにうちなひきたる秋萩の　たかまとのをのへの鹿のこゑ

新後拾遺秋上　あまのすむ浦わの月を見わたせは　たかやのうらのまつの夕かせ　左中将具氏

新拾 秋上 久堅のあまの河原のゆふくれや たかさこの山のもみちちるらん 躬恒

新後 雑上 なれぬるもうきをもおもふへきを たかさこの尾上の松の[illegible] 空人法師

続後撰 秋上 秋風の吹くにつけてもとはぬかな たかさこの山の紅葉[illegible] よみ人しらす

壬生二百 冬 はなさかぬ冬の[illegible]に たかさこの尾上の[illegible] よみ人しらす

拾遺 恋二 おもひやるこゝろのうちは たかさこの松もむかしの[illegible] 同

古今 秋上 天河もみちをはしにわたせはや たかさこのつもる[illegible]さへ 入道前太政大臣

新勅 秋上 もろともにこのもかのもの たかさこの[illegible]ふくからに 前中納言匡房

新続古 雑上 秋のよをあかしかねたる たかさこの松[illegible]すみれ 後京極摂政

続後撰 秋上 このころはわきて[illegible] たかさこのつまとふしかも[illegible] 待賢門院堀河

続古 秋下 あけぬとて[illegible]の山の たかさこの尾上の林[illegible] 権中納言定頼

同 春下 さくらちる[illegible]の水の たかさこのみねの[illegible] 津守国助

続後拾 冬 わたつみの[illegible] たかさこの尾上のかねの[illegible] 基俊法師

新後拾 雑秋 [illegible]山のみね[illegible] たかさこの松に[illegible] 後二条院御製

新後 夏 鐘の声[illegible]の[illegible] たかさこのさくらの[illegible] 前大納言為家

続古 冬 細[illegible]のいり[illegible] たかさこの山[illegible] 従二位家隆

壬生二百 上 もろともにながめし[illegible] たかさこの[illegible] 後鳥羽院

洞院 雑上 ゆふされは[illegible] たかさこの[illegible]

秋[illegible] 秋の夜の[illegible] たかさこの山の[illegible] 左大弁経親女

続古 恋四 [illegible]てもまたみぬ[illegible] たかしまや[illegible] 前大納言経任

壬生二百 中 [illegible] たかしまや[illegible] 新院弁内侍

続古 恋五 忘れ[illegible] たかしまや[illegible] 徽安門院一条

新続古 恋五 いくよ[illegible] たかしまや[illegible] 従上郎女

拾遺 雑春 白雪の[illegible] たかまとの[illegible] よみ人しらす

続千載 雑 [illegible] たかまとの[illegible] 信教朝臣

同 冬 [illegible] たかまとの[illegible] 右兵衛督基忠

続後拾 冬 [illegible] たかまとの[illegible] 法眼源承

続千 秋上 [illegible] たかまとの[illegible] 左京大夫顕輔

新古 春下 [illegible] たかまとの[illegible] 万秋門院

続千 春下 [illegible] たかまとの[illegible] 永頼法師

続拾遺 雑一 [illegible] たかまとの[illegible] 前大納言為家

拾玉集 [illegible] たかまとの[illegible] 津守宗為

続後拾 春上 [illegible] たかまとの[illegible] よみ人しらす

同 秋上 秋風の[illegible] たかまとの[illegible] 同

拾遺 別 [illegible] たかまとの[illegible] 同

金葉 別 [illegible] たかまとの[illegible] 同

新拾 羈旅 [illegible] たかまとの[illegible] 同

続古雑秋　とくれぬて我やたのみし[illegible]　たかさごの山をこえ[illegible]　柿本人丸
拾玉集五　[illegible]　たかさごの[illegible]
古今春下　[illegible]　たかさごの[illegible]　藤原[illegible]
新古羇旅　[illegible]白雲の　たかさごの[illegible]　大納言旅人
同雑上　[illegible]白雲の　たかさごの[illegible]　円融院御哥
風雅雑中　[illegible]白雲の　たかさごの[illegible]　権律師[illegible]
拾遺愚草　[illegible]　たかさごの[illegible]
壬二集上　[illegible]　たかさごの[illegible]　権中納言[illegible]
続千冬　[illegible]雲の　たかさごの[illegible]　藤原信実
同冬上　[illegible]　たかさごの[illegible]　[illegible]
新拾雑上　[illegible]　たかさごの[illegible]　藤原[illegible]
続拾遺春上　[illegible]　たかさごの[illegible]
拾玉集四　[illegible]　たかさごの[illegible]　藤原[illegible]
続後撰春中　[illegible]白雲の　たかさごの[illegible]
拾遺愚草上　[illegible]　たかさごの[illegible]　[illegible]
新勅冬上　[illegible]　たかさごの[illegible]　藤原[illegible]
続後撰雑中　[illegible]　たかさごの[illegible]白雲
拾遺愚草中　[illegible]白雲に　たかさごの[illegible]

新葉秋下　[illegible]秋の[illegible]　たむけ[illegible]　[illegible]
新続古[illegible]　[illegible]　たむけ[illegible]　民部卿為[illegible]
続古冬　[illegible]　たむけ[illegible]　[illegible]
新続古羇旅　[illegible]　たむけ[illegible]　藤原資有
新後拾羇旅　旅衣[illegible]　たむけ[illegible]　[illegible]
新後雑　[illegible]　たむけ[illegible]　[illegible]家
拾遺雑上　[illegible]　たむけ[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　たむけ[illegible]　[illegible]
玉葉羇旅　[illegible]　たむけ[illegible]　貫之
続古羇旅　[illegible]　たむけ[illegible]
拾玉集三　[illegible]　たむけ[illegible]
山家集下　[illegible]　たむけ[illegible]
同　[illegible]　たむけ[illegible]　[illegible]村
新続古三　[illegible]　たむけ[illegible]　権律師[illegible]
続後拾雑　[illegible]　たむけ[illegible]　[illegible]
続拾雑中　[illegible]　たむけ[illegible]　[illegible]雅人
新拾遺三　[illegible]　たむけ[illegible]
新後拾遺中　[illegible]　たむけ[illegible]　為[illegible]

続後拾遺 巻二 [illegible]

新千載 神祇 [illegible]

新後撰 [illegible]

同 神祇 [illegible]

新後拾遺 巻二 [illegible]

玉葉 神祇 [illegible]

新後撰 神祇 [illegible]

拾遺 [illegible]

拾遺 巻一 [illegible]

新続古今 巻三 [illegible]

新千載 巻三 [illegible]

続拾遺 雑上 [illegible]

続拾遺 巻三 [illegible]

続後撰 巻三 [illegible]

玉葉 巻一 [illegible]

新後拾遺 [illegible]

壬生二品中 [illegible]

続拾遺 巻二 [illegible]

新古今 神祇 [illegible]

続拾遺 秋下 [illegible]

玉葉 雑四 [illegible]

新拾遺 哀傷 [illegible]

壬生二品中 [illegible]

古今 秋下 [illegible]

壬生二品中 [illegible]

続後撰 雑下 [illegible]

続後撰 巻六 [illegible]

拾玉集 一 [illegible]

新千載 雑下 [illegible]

玉葉 雑五 [illegible]

新後撰 神祇 [illegible]

続拾遺 巻六 [illegible]

拾遺 巻二 上 [illegible]

風雅 巻二 [illegible]

続古今 巻三 [illegible]

続古今神祇　我国は [illegible]　[illegible]

壬生二百首下　山人の [illegible]　[illegible]

拾遺集　[illegible]　[illegible]

新古今神祇　[illegible]　[illegible]

伊勢物語　[illegible]　業平朝臣

続後拾遺　[illegible]　[illegible]

拾玉集　[illegible]　[illegible]

拾遺　[illegible]　[illegible]

拾玉集　[illegible]　[illegible]

新続古今雑上　[illegible]　[illegible]

拾玉集　[illegible]　[illegible]

月清集上　[illegible]　[illegible]

新後拾遺　[illegible]　[illegible]

続古今　[illegible]　左京大夫顕輔

続拾遺　[illegible]　平経[illegible]

続後拾遺　[illegible]　[illegible]

新続古今神祇　[illegible]　[illegible]

続千載　夕附 [illegible]　[illegible]

後撰　[illegible]　[illegible]

新後撰　[illegible]　[illegible]

続古今　[illegible]　[illegible]

拾遺　[illegible]　[illegible]

新続古今雑　海山の [illegible]　[illegible]

同　[illegible]　同

拾玉集　[illegible]　[illegible]

続拾遺雑　[illegible]　権中納言定家

同　[illegible]　侍従雅有

玉葉神祇　[illegible]　常盤井入道太政大臣

新続拾遺神祇　[illegible]　後西園寺入道前太政大臣

続後撰　[illegible]　[illegible]

玉葉秋上　[illegible]　[illegible]

壬生二百首下　[illegible]　[illegible]

拾玉集　[illegible]　後村上院御製

新葉神祇　[illegible]　[illegible]

拾遺　[illegible]　[illegible]

新拾遺上　[illegible]　[illegible]

新続古雑下　おもひ入る松の扉のあけくれて　たのむもかし菊の下水　前大納言為秀

続古雑上　春の夜はおほかたきみも猶くらし　たのむしるしの神のしるしも　前大納言基良

新古雑下　独ゐて今宵もあけぬ波のよし　たのまぬ心の思ひ知らるゝ　藤原為相朝臣

新千恋五　一声は三の山のありとしも　たのまぬ物をやすらひに　円光院入道前関白

新続古恋四　月みてもなくさむ事そあらなくに　たのまぬよひの契の空　家隆

新千恋三　つらさのみかはらぬ世とはしりながら　たのまぬ身にはなれし身なれば　後光明照院前関白

続古恋四　忘れともおもひしるらんかねことは　たのまぬ人の契りしものを　源雅言朝臣

伊勢物語　君こんといひし夜ことにすきぬれは　たのまぬものゝこひつゝそぬる　よみ人しらす

拾遺恋四　まち侘ぬと世のなかの人にかはるとも　たのまぬ物の思ひつきせぬ　前大納言為家

新後恋三　いつはりのある世なりせはいかはかり　たのまれぬ人の言の葉のつらさ　前大納言為家

玉葉雑五　うしとても猶そのかみの世なりせは　たのまれし人のことの葉もかな　民部卿具氏

拾玉集四　みなかみのむらさきもあはれなる世中よ　たのめし神の契りはかなし　慈鎮

新後恋三　わかためにつらき人しも世の中に　たのめぬ事のなきをこそおもへ　前中納言定家

新拾恋五　もろともにてらすひかりの光にて　たのめぬ人ともなしにもその　右京大夫公種

拾遺恋五　このころはひとしからぬ人のみぞ　たのめぬひとをうらみてつらき　よみ人しらず

同上　わすらるゝ身をしる雨のふりにけり　たのめぬつらさのはてそかなしき　山辺赤人

拾玉集四　今宵さへいざよふ月をまちかねて　たのめぬ人をまつとぞなく　院御製

玉葉恋二　なかなかにわすれぬ人をうらみつゝ　たのめぬ夕の空にうちなき　前大納言資季

月清集上　そのかみの山の月かけさやけくて　たのめぬ秋のみしかよの月　後京極摂政

新後恋三　よそにのみなかめてすきしさくら花　たのめぬ人のおもかげの空　従二位家隆

金葉恋下　ちきりおきし人もこすゑの秋風に　たのめぬ月の影をまつかな　藤原基俊

壬生二百上　つれなさのはてはいかにと思ふにも　たのめぬ月の影そまたるゝ　従二位家隆

新千恋三　待人の来ぬ夜はふけて月影の　たのめぬ夕の風そ身にしむ　権中納言

千載恋四　うらみてもなほたのまるゝ契りかな　たのめぬ浪の音そかなしき　権大納言実家

新続古恋三　月をのみ契りしよりもさしのほる　たのめぬ夜半の月をみるかな　二条院内侍参河

拾遺雑上　いたつらにまちし夜なかの月かけも　たのめぬ空に遠ざかりぬる　従三位為子

風雅恋二　ありとしもしらぬ人のわかれぢに　たのめぬ雲のたちまよふらん

続拾恋三　せめてたゞなくさめかぬる月影の　たのめぬ夜半もかはらぬ契　新宰相

続古秋上　うつりゆく雲にあらしの声すなり　たのめぬ秋の夕ぐれの風　安嘉門院四条

新後恋下　あはれともいふへき人はなかりけり　たのめぬ人のまちかねてねよ　後嵯峨院大納言典侍

月清集上　わかやとの花はさかりになりぬれど　たのめぬ人のとひもこぬかな　典侍親子朝臣

新後拾恋三　夜をこめてはるかに見ゆる月影に　たのめぬなかをまつそくるしき

壬生二百中　あはれとも思はぬ人をまつよひの　たのめぬ夜半もなほそまたるゝ　壬生忠見

後拾遺恋一　過ぎぬとも秋もあらじと恨めしき　たのめつゝ来ぬ夜あまたに　大中臣輔親

新勅恋二　いつはりを哀れと思ふ身のはてに　たのめつゝ行く末の松山　源家長朝臣

續古恋三　かくれなき入相のかねもさびしきに　たのめてもこぬよはつらき　従二位家隆

新千載　ほどもなく今やと思ふたのめしを　たのめてもあらぬ夕暮の　前中納言為相

續千恋三　せめて来ぬ人にたのめて我が袖の　たのめても来ぬ夜の雲の　伏見院御製

詞花雑上　うき身には待つ人もなき我が宿に　たのめてこぬ夜あまたの　清少納言

續古恋三　ゆくすゑを君がなさけもあらばこそ　たのめてもあはぬさきより　前大納言為家

拾玉集七　おなじくはいまはと思ふ秋のゆふべ　たのめぬ夜半の月に

續拾雑中　今はとて人も頼めぬ我が宿を　たのめしもなにかはさぞと　源兼綱

續後撰恋　うしと思ふ身のうきふしの松山の　たのめしひともかひなき　源信明朝臣

玉葉恋二　人もつれなき我もかはらぬ心とて　たのめしかたの末もなく　前大納言為氏

拾玉集七　うれしさも待つにつけてはかなしきを　たのめしまゝに思ひ出でて

續拾恋三　つれなくもかはらぬ心のうさに　たのめしよりもかひなき　前摂政左大臣

風雅恋二　思ひ寝の夢もいかにかなしきか　たのめしよりも恋しきは　進子内親王

新續古恋三　いかにせんとまらぬ人のうきに　たのめしよひのまたれて　権大納言公宗母

新後拾恋三　人もまたたのめし中の年月は　たのめし月日もはかなく　監命婦

續古恋四　頼めこそまたましものを　たのめし人の影もなき　式子内親王

新古恋四　忘れじといひし人のゆくへもしらず　たのめし秋も過ぎにし　殷富門院大輔

同

新續古恋二　かくてもあるべきものを　たのめしを人の心の　二條院讃岐

拾遺哀傷上　さてもなほ憂き身ひとつの秋なれど　たのめし月の空に　従二位経季

續後撰恋四　秋ならぬ待つもつらきを思ひ出でて　たのめしことは木の葉の　式子内親王

古今恋二　今はとて忘るゝ草のたねをだに　たのめしことの命かな　みつね

後撰恋六　いつの間にかはらぬ恋にならひけん　たのめしに君も来まさず　よみ人しらず

千載恋五　君やくる我や行かんのいさよひに　たのめて来ぬをかへりみる　俊恵法師

後撰恋一　山里はもの思ふことの数そひて　たのめしを待つとせしまに　よみ人しらず

新後拾恋三　なかなかに忘れもはてで　たのめし人の契りなれば

續後撰雑上　ながらへて花の盛りを待つほどに　たのめしひともいとはせぬ　惟宗行冬

山家集下　契りおきし秋の月夜を　たのめし人のまつらん

壬生二集上　うつりゆく人の心の花ぞとは　たのめし人の契りなき

續後撰恋　あはれその月の夜ごろの　たのめしものを言ひの比　後京極摂政

新千恋四　思へども出でぬ山路に　たのめしこそさかりの比　前中納言季雄

新古恋四　思ひつゝあかず別れし秋の夜の　たのめし夕暮の風　前太政大臣

壬生二集上　消えてもなほ恋ひわたる身は　たのめしことのつゆの葉　権中納言教忠

風雅恋二　我のみや心にかけて　たのめしも世の常なれや　永福門院

新千恋二　人はいさいつはりやもすらんなりなの　なのみそらにかかる舎を　西園寺前内大臣女
続撰恋六　心には常なりすらもむすふ　なのみやつれしとおもはぬらん　ちらくん
新拾恋三　世中にたえてつらさのなかりせは　なのみぬれつゝみをやつさき　同
新続拾恋三　かはらしとおもひしことの成はてゝ　なのみたかくや立まさるらん　権大納言為遠
新千雑秋　今はもと見しよりもなほ渡りなき　なのみをかけて雲の上の　後法性寺入道
新勅恋　いくたひか思ひのこすにあれはまつ　なのみなかれてもすゑの山　亀山院御製
新葉雑秋　秋風やゆふくれのほとはしめて　なのみとけにしよの池の　前大僧正慈弁
玉葉雑秋　おなしくはさかゆるひとも有けれは　なのみをかけしよにこそ有　後京極摂政
続拾雑秋　此世にはたれにか見せん草はれ　なのみとたゝんいはてさへ　甚生法師
新続拾恋三　縁の松ちる中はちよりてゝも　なのみふかきよをの葉に　後堀川院民部卿典侍
続拾雑秋　行末をたのむはかなさ有らは　なのみのこれるうらかな　宗仲法師
山家集下　とかくへてそ世ひとの　なのみかはることはそなきに　西行法師
新続拾雑下　ちりとなりぬるゆかりも　なのみやはなをなしてもひとかたに　浄俊法師
風雅恋二　なぬきてさらにしらぬ今はひとに　なのみむなしくなりぬる　宜秋門院丹後
新勅恋三　いとけなき物をたのむのやとは　なのみやむすひしとて　建礼門院右京大夫
万葉恋二　ことのはのうつろひかはる人は　なのみそそ世にあるかひもなし　前参議雅経
新後拾雑秋　涼しくは松のこゑきけはるは　なのみてもはかなきすまに　従二位行家
拾遺戀上　つれなきを月はむかしにかはりけり　なのみてもこぬ人は在ぬ

拾玉集一　まちまちてとふ人もなき秋さむき夜は　わかことのはのあきの露　前大僧正慈円
同　思ひてはなけかさらんとせん年まも　わかことのはの露も露そ　前大僧正慈円
同又　はかなくも雪ふりつもりかなしき　わかことのはのうちもかな　先摂政
玉葉恋二　さらにまた行きおもひしかなしさよ　わかことのはのみをしりて　永福門院
月清集上　月やとす露のよすかに秋の夜は　わかことのはの色もなし　為家卿
続千恋四　こぬまてもなにとかしとはてる　わかことのはのこゝろなる　家隆法師
続後撰恋六　今は又まてとはたのむ君なれは　わかことのはの外のかけ　九条左大臣
新勅雑三　われをまつなるかはかりとおもふ　わかこゝろにこそけさに　権大納言実家
千載雑中　見ぬ人のことはのかきの月　わかことのはのかけたのむ　前参議雅経
新葉恋二　かはらしのちきりは世をへてもわかみに　わかことのはの世になかりけり　後入道
続後撰　山おろしの風をまつむし月かけの水　わかことのはの世になかりけり　後嵯峨院
新古恋六　山城のみつの水のよにおちて　わかことのはもかれやみる　従三位
千載雑上　いつかまた世をはかなしと思ふな　わかことのはをたのむかな　前中納言定家
新拾恋三　人しれぬ夜はのねさめのかなしきに　わかことのはを思ふらん　前大納言為家
拾遺恋上　このたひはあさはもみちのむへなり　わかことのはにあまたかな　権中納言
金葉雑下　なにはひとむかしのこゝろに　わかことのはを人にみえ　藤原資隆
拾遺恋上　なかて世の情とかたきを　わかことのはのちりもなき　御匣殿
続後拾雑中　なかくもかならすやまた見える　わかことのはの色そまさる　御羽弁

玉葉恋六　まさきのつらわりとも　たのまれぬ[illegible]　光俊朝臣
壬生二恋中　いかにせん[illegible]　たのまれぬ[illegible]世[illegible]
新続雑下　[illegible]　たのまれぬ[illegible]　源兼氏朝臣
山家集下　雲のむきかれ[illegible]　たのまれぬ[illegible]
拾玉集四　[illegible]　たのまれぬ人[illegible]　大中臣能宣
拾遺恋五　[illegible]　たのまれぬ[illegible]君[illegible]　宰相[illegible]
玉葉恋六　[illegible]日[illegible]　たのまれぬ[illegible]　藤原行式
金葉恋上　[illegible]の山[illegible]　たのまれぬ[illegible]秋風[illegible]
壬生二恋中　君[illegible]　たのまれぬ[illegible]　安嘉門院[illegible]
風雅恋下　山川[illegible]　たのまれぬ[illegible]川霧　前大僧正慈鎮
同秋下　[illegible]山[illegible]　たのまれぬ[illegible]　後伏見院中納言典侍
同秋中　[illegible]山[illegible]　たのまれぬ[illegible]
拾遺愚草外上　[illegible]　たのまれぬ[illegible]
同　[illegible]　たのまれぬ風[illegible]
新千秋下　風[illegible]　たのまれぬ月の[illegible]　前大納言後光
拾遺愚草下　[illegible]風[illegible]　たのまれぬ[illegible]
新拾秋下　[illegible]山[illegible]　たのまれぬ[illegible]秋風[illegible]　権中納言公雄
風雅雑中　山[illegible]　たのまれぬ[illegible]　前大納言[illegible]

山家集下　[illegible]　たのまれぬ[illegible]
同上　[illegible]人の[illegible]　たのまれぬ[illegible]
新千旋頭　[illegible]川[illegible]　たのまれぬ[illegible]世[illegible]　後[illegible]朝臣
玉葉雑一　[illegible]　たのまれぬ[illegible]世[illegible]　[illegible]
壬生二恋上　[illegible]　たのまれぬ[illegible]
拾玉集六　[illegible]　たのまれぬ[illegible]
山家集下　[illegible]　たのまれぬ[illegible]
拾玉集七　山[illegible]　たのまれぬ[illegible]秋[illegible]
續千雑中　[illegible]　たのまれぬ[illegible]
續古雑下　[illegible]　たのまれぬ[illegible]　[illegible]
新勅雑　[illegible]　たのまれぬ[illegible]　[illegible]
新葉雑　[illegible]山[illegible]　たのまれぬ[illegible]　後[illegible]
新続秋上　[illegible]　たのまれぬ[illegible]　[illegible]
玉葉雑五　[illegible]　たのまれぬ[illegible]　[illegible]
新拾恋二　[illegible]　たのまれぬ[illegible]　[illegible]
拾玉集二　[illegible]　たのまれぬ[illegible]
新続旋頭　雑[illegible]　たのまれぬ[illegible]　[illegible]
新続古恋一　[illegible]　たのまれぬ[illegible]　[illegible]

後拾遺恋二　浦風にあらいそのなみのよるさへ　たくなはのくるしかるらん　藤原実方朝臣

拾遺物名　白露はあけばきえなむしたくさを　たまふぬくくさつむへきをかな　中納言家持

新千秋上　さゝかにの糸にかゝれる白露を　たまふぬくへくつゆまもるらむ　よみ人しらす

後撰秋中　秋の野におく白露はたまなれや　たまふぬくくもかいとすちも折れ

千載秋上　さらぬだに涙のゝきばにかゝりけり　たまふ前つゝ秋の九月　権中納言長方

壬生二中　女郎花の露は秋の上に白露の　たまふ君てゆるく月かな

古今春上　あさみどりいとよりかけて白露を　たまにもぬける春の柳か　僧正遍昭

後千哀傷　露深き草の露にも光のわれかてそ　たまさかひとつひとつつゝらん　権大納言教

新千秋上　たのむかは秋の夜なかき露の　たまぬくめ恋しきぞ浦てつ　兼輔

後拾春上　青柳のはかりつくらむ白露と　たまきかえつるのまてあつめ　後京極摂政太政大臣

新古秋上　白露をそのゝにもとめて秋風に　たまちりみたれつゝ風さそふ　中納言家持

出雲集中　とつてもおくらし白露の　たまらぬ露にぬれても　二条

後撰秋中　かくてよくらん君をまつ　たまそめくらむ露のゆくへを　伊勢

拾遺秋　うつくしき君がためにと秋の野の　たまこそ山の薄をもあらん

秋風集上　あきかせにやみにしもあらず　たまもちてやまにそちるら　鳥羽院

新後冬　花もちるきみか名にたつゝらんこそ　たまもちるらし風をいたみ　正三位知家

後拾遺秋　おく山になかれて落る滝浪の　たまちりつゝ松にかゝる　皇嘉門院

月清集上　花ちらしかぜのふくらん玉ちる　たまゝちるらし袖にもかゝる

壬生二下上　あくかたさえてしほ風に　たまちりつゝ袖ぬれにけり　待賢門院安芸

千載羇旅　さゝの葉に置く霜まもる秋なれは　たまちるくも秋のかぜ　法橋春誓

後拾雑五　まてといはゞ山下陰のしのびはなれ　たまちる浪の月そよりけり

後千恋二　わかれにし人のたもとにみつ　たまちる涙の秋ちきり　正三位為実

風雅冬　霜むすぶ人の風さえて　たまりもあへず露の涙　従三位親子

後撰秋上　鶉なく山野の秋の露ちりて　たまぬくつゆの秋をしむ　右近大将

拾遺恋五上　あさみどり春をきにける　たまぬくのみなみかぜ

同下　文のはかりもしらぬ秋の　たまぬきかくる秋風の吹　藤原盛経

新拾恋　花ちる露の色々に　たまぬきかくる秋の紅葉　源師光

新後拾秋上　千種さけば露のしらたまを　たまぬきちらし秋の葉に　摂政太政大臣

金葉恋上　君ならで誰にかみせん露の　たまぬきさちる秋のかぜ

山家集上　あつまぢやこのゝをのへの秋かせに　たまぬきかくる糸の露

拾遺恋下　山城のいてのゝ玉水手にむすび　たまもたゞれて夜なく

玉葉秋上　乙女子がかざしの萩のえだに　たまもかゝれる秋の葉の露　前大納言為家

拾玉集四　わすれなん人を恋ふとて夜とゝもに　たまとそなりぬ秋の夜の月

壬生二中　みやまびのみちさへさむき秋かぜに　たまとなりける秋の夜の露

山家集下　もろともにおなしこゝろに玉かつら　たまゆらちりし月の夜のあけぼの

新拾哀傷　夢のうちのきのふの秋のほどもなく　たまゆらちりし人の露のなみだ　人丸

續古戀五　おもはぬに衣のうらをはらはれい　たまくらはまくらやひとりぬるゝにも　前大僧正
長秋詠藻　照月も光ちゝにくたくらん　たまくらせぬにおもふ身の波
續古秋上　紀の國やゆらのみさきの月清き　たまくらせかぬ秋の浦波　源師光
玉葉戀四　わかれての後の涙もおもはれて　たまくらもさらにぬれける　高弁上人
金葉戀下　おもひ寝の夢のうちにも[illegible]　たまくらさそふ[illegible]　源俊頼朝臣
續後撰秋上　天河わたるせもなき[illegible]　たまくらさそふぬれはかぬれ　入道前摂政左大臣
拾遺愚草上　うち[illegible]時雨[illegible]　たまくらむすふぬれにけり
月清集上　世の中はつかのまのよにおもふらん　たまくらに[illegible]ぬれはぬれ
風雅雜上　雅[illegible]　たまくらにねてもあかつきの　惟宗光員
玉葉秋上　夕さへ[illegible]　たまくらいそいて涙やくらん　式部卿重家
拾遺愚草上　[illegible]　たまくらの[illegible]
長秋詠藻下　さゝ波や志賀の浦風の波も氷なり　たまくらそてをもうつしつる
大和物語　かけのみつのうへにおもへれ　たまくらに[illegible]
新後拾冬　嵐[illegible]　たまくらぬ[illegible]　後京極摂政
續後撰秋中　衣[illegible]月影　たまくらぬれて[illegible]　貫之
續拾雜秋　世の中に[illegible]　たまくらぬゆきさえて[illegible]
新後拾秋下　錦[illegible]　たまくらそてもゆかなし　よみ人しらず
新續古羈旅　[illegible]　たまくらてまくら世の[illegible]　太政大臣

新後雜上　風[illegible]　たまくらすみてうちおもふ　源秀能
山家集下　[illegible]　たまくらすきぬれぬかりけ　大納言經信
金葉秋　てる月の光に[illegible]　たまくらをちにはつかの[illegible]
玉葉雜下　[illegible]世[illegible]　たまくらのいつからそうき[illegible]　民部卿為光
續拾賀　[illegible]　たまくらの松の下[illegible]　菅原輔昭
續秋遠冬　[illegible]水[illegible]　たまくらも今[illegible]
續撰戀一　[illegible]　たまくらそうちなかめつ[illegible]　よみ人しらず
古今戀二　[illegible]　たまくらのかりそめ[illegible]　藤原敦忠
拾遺戀一　[illegible]　たまくらに[illegible]
續後撰戀三　[illegible]　たまくら[illegible]　貫之
新千載上　[illegible]　たまくらをまくらにしつゝ[illegible]　法印定為
續拾遺戀三　[illegible]　たまくらのとは[illegible]　律師慶意
夫木二十下　[illegible]　たまくらそうつりゆくめ
同中　夜[illegible]　たまくらもねぬ夜[illegible]
同　[illegible]　たまくらとねぬ夜[illegible]　大中臣親世
新葉秋上　秋風の[illegible]　たまくらに[illegible]
若菜上　[illegible]　たまくらにそて[illegible]
新千秋上　[illegible]　たまくらの[illegible]　入道前太政大臣

拾遺愚草　つねよりも又かきくらす雑もくらきあめ　たまれ数の秋のよの今

同下　天の河氷ぞうつらふかき　たまぬくもも雲にみえまさる

拾遺員外下　卯の花おりもせぬ白露の　たまちるさといはゞにまがひ

山家集下　くれぬるか月はみてもしばしだに　たまのうはもかさへしらみける

玉葉雑二　数ならぬ涙の露を分けてけり　たまのをりとぞんとしよ　和泉式部

新後秋上　うゑおきし物わすれぬる　たまのかざりよめぬるゝ白露　入道前太政大臣

壬生二百中　雲ならで野分の風もふきかへぬ　たまれるぞ露をく

新拾雑上　荻の葉に露のひかりもみえわたり　たまれたる秋の月を　読人不知

拾遺員外上　芦の葉露のかゝる雨のうちよりの　たまのをよぬめるさけ

玉葉雑四　親の手にかゝる雨ぞ宿かる　たまのをりよにつげん　上東門院

新勅賀　いろ〳〵に散る葉の露もおきゐて　たまのきりあまりもみえず　正三位家衡

桐壺　たつね行くまぼろしもがなつてにても　たまのありかをそこと知るべく

千載羇旅　松が根の枕もなにかあだならむ　たまのゆかならぬかりねと思へば　崇徳院

古今物名　うぐひすのかさにぬふてふ梅の花　たまれ物の名しのびける

長秋詠藻中　君が代にあらへるならぬ水屋も　たまれ御のあれよしもがな

壬生二百中　むかしの家々の白梅に　たまのきもとはしとかき

後撰賀　百よまでせよ　たまのやまのやそちよの　[illegible]法師

玉葉雑六　秋萩の露ぞ人はまなきぬらん　たまのひかりそへる世もがな　従二位為子

拾遺員外上　かきつくる山ほとゝぎす　たまのをのなかきよの雨

長秋詠藻下　明方の波の音もさびしきに　たまれ盧の風のおとなひ

新拾冬　色にある木の葉に時雨ふる　たまのすゑなむゆふぐれ　中納言家持

新千秋下　秋よりの露をさむけきに　たまもちのそのしら露に　従三位為継

新古秋上　秋の色は雑にうつりぬ　たまぞしくとぞ時雨　式子内親王

同恋三　夢にても人にかよはぬ心には　たまはくるしき人の　伊勢

新後拾羇旅　かり寝して月と一夜の露の　たまこそしるや風の音も　寂蓮法師

風雅恋三　思ひきや夢に風のよそながら　たまのうへにかけて　宗尊親王家

後拾秋下　さゝの葉におく霜にぬれて　たまとしてなに秋の涼しさ　素暹法師

後拾秋上　待て見よ行く先に風のおとに　たまぞしりけるあしたの風　入道前太政大臣

風雅雑旅　雲の目もなくなりゆく　たまひかりぞおきて白雲の　皇太后宮大夫俊成

同雑上　さほ河の岸のゆふかげ　たまぬくあさぢの末の霜　前中納言為家

新葉雑秋　秋風の寒しと知るも　たまれ萩の花にかゝる露　前中納言為藤

後撰秋中　秋の野に置く白露は　たまなれやつらぬきかくる蜘蛛の糸すぢ　文屋朝康

玉葉冬　甚だしき露にもまさる　たまの緒のたえてみだるる雪の　権中納言長方

千載夜　思ひきや露もはかなき　たまぞちるらむ秋の夜の月　藤原定通

月清集　さく露をのみおく朝の浦の　たまゆらもかはらぬ月の　[illegible]

新後秋上　さきにほふ花の紐とく夕露の　たまくしげふたたび秋風ぞ吹く　太上天皇

千載秋上　みをつくし[illegible]　なにはえのあしまにやどる[illegible]　前右近中将[illegible]　皇太后宮大夫俊成

新古羇旅　夏かりのあしのかりねの[illegible]　たまえの月[illegible]

壬生二下中　[illegible]　なにはえの[illegible]

新後拾秋上　月影も[illegible]　なにはえの[illegible]　藤原[illegible]

新千秋二　[illegible]　なにはえの[illegible]　藤原家経

壬生二秋上　[illegible]　なにはえの[illegible]

金葉秋上　[illegible]　なにはえの[illegible]

後拾遺二　[illegible]　なにはえの[illegible]　権中納言[illegible]

新後拾秋三　[illegible]松浦の山の[illegible]　なにはえの[illegible]　同

新古秋一　[illegible]　なにはがた[illegible]

新勅撰雑四　[illegible]　なにはがた[illegible]　権中納言長方

拾玉集六　[illegible]　なにはがた[illegible]　後京極[illegible]

拾遺愚草員外上　[illegible]月や[illegible]水は　なにはがた[illegible]

同下　[illegible]　なにはがた[illegible]

山家集下　[illegible]　なにはがた[illegible]

後拾遺秋　[illegible]　なにはがた[illegible]　清[illegible]公

新千秋上　[illegible]　なにはがた[illegible]

山家集上　[illegible]　なにはがた[illegible]　大江貞重

玉葉秋下　[illegible]　なほゆく[illegible]　三条入道左大臣

新勅撰雑三　[illegible]　なほゆく[illegible]　後京極摂政前太政大臣

風雅秋中　[illegible]秋風に　なほゆく[illegible]　従二位家隆

続拾秋下　[illegible]　なほしく[illegible]　平政村朝臣

風雅秋　[illegible]　なほしく[illegible]　宗尊親王

続後拾秋上　[illegible]　なほしく[illegible]　権中納言[illegible]

拾遺愚草上　[illegible]　なほしく[illegible]

壬生二下中　[illegible]　なほしく[illegible]

拾玉集六　[illegible]　なほしく[illegible]

続古今秋上　[illegible]　なほしく[illegible]

拾遺愚草員外下　[illegible]　なほさ[illegible]　前中納言定家

新千秋上　[illegible]　なほさ[illegible]　前中納言為氏

金葉秋下　月[illegible]　なほも[illegible]　大納言経信

後撰秋三　[illegible]　なほも[illegible]　よみ人しらず

新続古今秋　[illegible]　なほも[illegible]　前大納言為家

後撰雑一　[illegible]　なほも[illegible]

大和物語　[illegible]　なほも[illegible]

万葉　[illegible]　なほも[illegible]　よみ人[illegible]

新拾冬　霜おきてさえたる夜はの池水に鴨の　なまよりとかうらみてなくらん　前大納言隆房
新続拾雑秋　霜おくらんかきりもしらす鴨のゐる　なまよはにふるかつらのしらなみ　同
千載冬　難波かた入江にさはくあしかもの　なまよはしものふりにしもかな　左京大夫顕輔
月清集上　おもひ出のみなとにふるき鴨ならて　なまよはにさむきしほ風のおと　
玉葉冬二　かつ氷るいり江のあしのかれ葉にも　なまよはに人をひらくねかなかな　紀貫之女
拾遺雑秋　よるもかくかくもの世にあらはれて　なまよは見たれとちきりけむ　増基法師
後拾遺恋三　あかつきの浪のかへるにぬれて　なまよはに君をもとめしかな　
拾玉集二　跡とめてなのみの人をまちくらし　なけきてのこる世の中の心　
玉葉雑三　さくら花さくらは人のものなれは　なけかるるかなしき人のくもゐ　郁芳門院安芸
後撰恋二　思ひきやこのみの浦に浪よせて　なけきあかれけるはるのはな　藤原雅正
後京極摂政　さりともとおなしことのはをもて　なけきあまりの月のおもかけ　法皇御製
月清集上　松よりもなほ山のは遠くして　なけれとうらみの世のなかの　讃岐入道
拾遺恋五　今ははやおもはぬことのおほかれは　なけかしなれてほのかなる　
新古今　さりともとまつにかへるなきそら　なけれとてこの世にぬるらん　大納言経信
拾玉集六　待ちわひてよるもすからにさのみやは　なけれはうつりかはる世の中に　
風雅恋上　みぬ人のかたみもかなし秋の風　なけれたる山の秋の夕くれ　
後拾遺冬　さむきよのいそのあらしにたくも火の　なけれともかけもなき岩ほに　藤原範永朝臣
拾遺賀秋下　うつりにし花のしらなみ　なけれとも世もまつにちきる　延明門院大夫
新後古秋上　ふしなれぬ色もあはれ　なけれとも山の秋の夕くれ　前大納言為世

月清集上　おもひやるこころのうちはくもらねと　なけれはこそ山のかすみに　従三位家隆
新勅秋上　めくりあはんそらをもしらぬつらさかな　なけのものや雲のうへまて　よみ人しらす
風雅春上　梅のはなちりもまかはぬそのほかに　なけれたてにまたれぬるかな　前大僧正慈鎮
月清集上　君ゆゑにこのみをすてし山のいほに　なけの林の花をみるかな　
風雅冬　めくりこしよはのしくれのさむきにも　なけのこころのこの月かな　
千載恋中　山ふかきまつのあらしをかきわけて　なけれたる秋の霜　中務卿宗尊親王
新葉雑上　春やとき夏のくさはの露ならて　なけのこのよのうつろひ　前大僧正禅助
玉葉秋　ゆくへのみしられぬ秋のわかれかな　なけかれのことはにしもゆる　後京極宗遠
新千載秋　ほとゝきすなきつる方をなかむれは　なけのこのよのおもひをかなし　慈鎮法親王
後拾冬　うらなくもゆふへのくものたえまより　なけれのことしの白雪　
山家集上　うらやましとしもいはしな世の中に　なけれしくもかなしのさはき　
新後拾秋　君やくるわれやゆかむとおもふまに　なけのこころのうきよの　花山院
新葉雑中　たまさかにおとつれきけはおもひをや　なけのこころさへ山のはの雲　前大納言為冬
拾遺雑秋　君をおもふいかなるわけか世の中に　なけのこころのうきよのまて　よみ人しらす
拾玉集四　夕されはあらしの風もさむからし　なけれはこころさひしき松の世　
同六　風のおとにたちもとまらぬ秋の雲　なけれのさかりもすきゆく　
同三　おほかたのあきのあはれを思ひやれ　なけれのさとにすむひとのおもひ　
新続拾雑秋　たつねてもいかてしりなん秋の夜の　なけのこころさへおもひのまて　紀友則

月清集上　ちぎりおく山風よりもむかし時雨　なげきのさ秋はありしおもひで

玉葉冬　暁よつもりやゆきのふかきかな　なけのやまおもひくらしつ　藤原行房

拾遺雑秋　白雪のふるかくせども世をすてゝは　なけのみやかくつもらん　伊勢

山家集上　常のよにさやかに月のすむならば　なけれどもさかみつらん

拾玉集三　あはれにもまつ松に風ぞふくなる　なけつゝ風の音ぞなすそ

同　なみだ川わが涙にもそひぬるものかは　なけく袖に露おきそふる

拾玉集二　ちりぬともおもかげのこる花のいろ　なけきいはむそのをいて

壬生二下　武士の八十うぢ川のせゞにながれ　なげれども月のはなるゝ

同一　世のつゆのうらみぞ月の露ぞはらはれ　なかれもたえぬわかれかな

新続古雑　萬の葉の秋の夕世にもしほのきて　たへのふかきおもひせ　源孝範

拾玉集七　浪もふるなる波をよそにみて　たへの浦に松がえのおきて

壬生二中　春つれなあしのふしの山のかくなき　たへにまたなかくさりても

続後拾遺　おもひかぬ袖をいかにとおもへかし　たへにたちもやまさらむ　邦省親王

風雅恋三　君がためさくらとおもふこゝろをば　たえかぬる心のほとりかな

玉葉恋三　おもふにもたえてきみをしみつゝも　たちまよふしとおもひのやせ　前太政大臣

壬生三上　つゆの行衛は一とせもきえぬよそにて　なにそぬともおもひまよふらん

拾玉集四　よそのかくさむ霧のたつ松に　なにかとのみえぬものゆゑ

新続古今　梢ゆく枝の梢も道は世に　なえかりはつることのはの下　関白左大臣

新古今冬　あらしふくみねのもみぢの紅葉にぞ　なかなかにこと葉やらでは　能宣朝臣

新続拾遺　まつりごとしたひしことぞおもひぬや　なかおもひしらぬ枝の空　権大納言実氏

月清集上　さかゆく秋の山のかけはし　なかけれぬ心の底にたちて

拾玉集三　そり夜もよそになれにけるかな　なかのありのまゝに見をこそ

続古雑下　おもかげのかはるのもとなれは　なかのちゝの花のはるを待　土御門院御製

続千載恋四　河ならぬなみだのよそのうき涙　なかのちりもかなしくなれて　権中納言為藤

玉葉恋二　思ひもいれぬ心の雲ぞかし　なかれわたるの袖を見ん　藤原顕綱朝臣

新拾遺雑中　よしなしと思ひとりてもはなれぬ　なかれたつしもとこそおもへ　前中納言雅孝

続千載恋　おもひいる袖のこほりの雪ぞふりしく　なかの名残のつらさこそあれ　権律師定海

続拾遺恋四　あさましやしたの思ひのいかならん　なかぬれて袖のうへにふかくぞ　源家長朝臣

拾遺愚草上　かたみのかずもつきせぬ袖のうへを　なかぬれてくもるかたのこゝろ

風雅恋三　なかなかにかへりてうつりなきものを　なかぬれたる涙のこぼれ　前大納言為定

新続古恋二　あさましや人ぞかへりしむすびの　なかぬれてもや袖をしぼるらん　入道贈一品親王

新古雑中　かかるよにたちかへりつるかへしも　なかぬれぬるこそうきよなりけれ　東三條入道前右大臣

風雅恋　思ひのほかにかはるこゝろを　なかぬれて入の袖のかたふる　藤原清輔朝臣

新千載恋五　ながらへてあはれはかなき身のいまは　なかぬるの人の袖なきのこる　前参議雅有

続後拾恋二　いとゞまたしらぬ枕の涙にて　なかぬるよつかえそめにし　安嘉門院甲斐

新勅恋四　はやき河の流れにまかす水のあわ　なかぬれてのみゆく水のなみだ　平中興女

大和物語 関川の[illegible] たえぬ[illegible] [illegible]
後撰[illegible] [illegible] たえぬ[illegible] [illegible]
新千載 [illegible] たゝぬ[illegible] 前中納言[illegible]
月清集 下 萩が[illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
拾玉集 六 今宵[illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
同 一 織女[illegible] たゝぬ[illegible] 前大僧正[illegible]
後拾遺 三 [illegible]七夕[illegible] たゝぬ[illegible] 中務卿[illegible]
新後撰 秋上 [illegible]七夕[illegible] たゝぬ[illegible] 読人しらず
後撰 六 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
新続古今 四 [illegible] たゝぬ[illegible] よみ人しらず
続撰 六 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
新続古今 秋上 天の川[illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
新続古今 秋[illegible] [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
続後拾遺 四 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
新拾遺 [illegible] 谷川の[illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
新後撰 雑中 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
新続古今 一 [illegible] たゝぬ[illegible] 藤原[illegible]
新葉 哀傷 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
新拾遺 哀傷 [illegible] たゝぬ[illegible] 新少将

新続古今 雑上 [illegible] たえぬ[illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] たえぬ[illegible] [illegible]
新続[illegible]二 [illegible] たゝぬ[illegible] 在原[illegible]
夕[illegible] [illegible] たえぬ[illegible] [illegible]
続後拾遺 [illegible] [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
新続古今 四 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
後[illegible] 二 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
拾玉集 四 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
後[illegible] 二 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
新古今 二 [illegible] たゝぬ[illegible] 越[illegible]
新千載 一 [illegible] たゝぬ[illegible] 伏見院[illegible]
千載 四 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
後拾遺 二 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
拾遺 [illegible] [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
新葉 [illegible] [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
新千載 三 [illegible] たゝぬ[illegible] 太[illegible]大臣
拾遺 [illegible] [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]
後撰 一 [illegible] たゝぬ[illegible] [illegible]

柏木　いまはとてもえんけふりもむすほゝれ　たえぬおもひのなほやのこらん　源氏柏木衛門督

新千 雑下　芳野山岩きりとほす滝の音　たえぬや花のさかりなるらん　後京極摂政

拾玉集七　夏かりやあれたる宿の清水の　たえぬはかりの夏もあらなん

新拾 恋一　かきりなき山した水の絶やらて　たえぬけふりのむすほゝれたる　常磐井入道太政大臣

新葉 恋一　浦にすむ海人のたく藻の煙の　たえぬ思ひをいふ人のなき　読人不知

続後拾 恋一　なにまてとおもふ思ひの中にしも　たえぬなみたのかはれとそなる　前参議為定

拾玉集一　浅茅生の月すむ秋の中にして　たえぬおもひのもえてまたまし

新続古 雑旅　かくはかりの思ひにもえて　たえぬとかたしつゆのしらなみ

山家集下　あやしくも雲たちのほるうみのみすほ　たえぬにしきのおりかさなりて

松風　契りしにかはらぬことのしらへにて　たえぬ心のほとはしりきや　権中納言為重

古今 恋四　むさしのゝ小ぬすかさぬこそ浅からぬ　たえぬこゝろのいかにくるしき　よみ人しらす

続後撰 恋三　むかしよりわかれてかよふおもひには　たえぬこゝろの苦しき世なれ　後京極摂政

新後拾 雑上　人しれぬむまやのあとにかよひしに　たえぬやこのよのかすみもあるる　源有綱朝臣

続千 賀　今もまたみよしのゝ山の雲の上に　たえぬみゆきのあとそふりける　前大納言為世

新千 旅　いつかまたあふせやたえぬ山川の　たえぬみつゆのいとゝかなしき　権僧正良瑜

続拾 冬　おきあかす霜のふすまのいたつらに　たえぬみゆきの世をはへぬらん　法皇長親朝臣

新古 夏　恋すてふ身の秋の心をかくしつゝ　たえぬ思ひのかすにもあるへし　藤原保季朝臣

関屋　ゆくとくとせきとめかたき涙をや　たえぬ清水と人はみるらん　右衛門佐

後拾 恋又　あつまちの露わけ入るはたえにしを　たえぬもとこそこゝにかよはめ　大納言経信

新勅 哀傷　ありし日の入る山のはのうきにこそ　たえぬひとりのゆふくれのかね　源季広

続後撰 秋　月も日もかはらぬものとなかめても　たえぬ光をみるよしもかな　従三位行能

新千 夏　ふゆくさにしけるみかりの草葉たに　たえぬひかりのしるしなりけり　関白前左大臣

続千 神祇　ちはやふる神のみつかきはかはらねと　たえぬひかりをみるそうれしき　前関白左大臣

拾遺 冬下　雪ふれはきのふのなかめかはらねと　たえぬ日かすの身につもりぬる　浄意法師

新勅 恋又　せきとめぬ涙のつゆのこほるれは　たえぬ思ひをしのふころかな　権大納言実家

山家集下　いつもなほはかなきものはふしみなる　たえぬまくらのまよふころかな

拾遺 旅頭　ますかゝみとかくはかけてかよひても　たえてこそのおもひしらるれ　大江経親

新後拾 雑上　秋の夜のあまのとわたる月かけに　たえてくるかな秋のきり雲　参議雅経

新拾 恋四　小倉山ふもとの寺の入あひに　たえてくやしき秋の桐のは　寂蓮法師

玉葉 秋上　村雲のかゝる時しも月かけに　たえてくるしきよるのうきくも　永福門院

新後拾 秋上　ねかひつるこゝろのまゝの秋の風　たえてくまなき秋のよの月　前大納言為家

続古 冬　あしひきの山のしつくのこほりては　たえてくるしき冬の夜半かな　よみ人しらす

新古 恋四　わすれゆく人のこゝろのはかなさに　たえてくやしき君かことのは　刑部卿範兼

拾玉集二　今はとてあまのいさりのかゝり火も　たえてくもゐのうきにもあるかな

新拾夏 村雲のかゝる日影も霞 たえ〻かゝる宇治の川霧 源仲綱
後撰恋六 玉くしけあけて見ゆれは たえ〻そのかたもなく ようみ人しらす
新後冬 冬のいけにむすふ氷の たえ〻にゆく山川の水 永福門院
新古春上 山ふかみ春ともしらぬ松の戸に たえ〻かゝる雪の玉水 式子内親王
月清集上 山さとのさひしさおもへ夕暮の たえ〻にみゆる峯の松風 太上天皇
続古恋五 心をもほせてもかのうき水 たえ〻あれは中川の水 藤原範綱
同恋下 行末をおもひもとけぬ氷 たえ〻むすふ谷の下水 藤原範綱
続後拾上 霞わたる峯の梢のとたえして たえ〻むらさきの雲 堀河右大臣
千載秋下 萩の花をはつかに たえ〻の秋の夕山 藤原季経
新続古秋下 あらしふく山の嵐の風に たえ〻かゝる木の葉の 二条院讃岐
拾玉集 山桜さきぬる峯の たえ〻に咲く花の雲 守覚
新後拾雑 河霧のたちこめて たえ〻の宇治の川橋 よみ人しらす
壬生二集上 いつもとは時雨の雲も たえ〻に見る山の月
続後撰雑 大淵のさゝらも 今日とてたえ〻 後京極摂政
月清集中 今日よりは秋の夜すから たえ〻に見る月のかけ
新古雑上 秋山の木の葉の月の たえ〻の月をみれは 藤原秀能
玉葉夏 山陰やきよき岩間の たえ〻にむすふ清水 藤原範朝

後拾秋下 きえのこる峯の雲も晴やらて たえぬる山のかけに 内大臣
拾遺恋上 夜ならて朝の雲の たえぬ宇治の橋 後京極摂政
後撰恋三 日のくれの月かけ たえまも見えぬ 太上天皇
風雅恋四 みちのくの月日の たえぬ思ひに 参議雅経
後撰恋五 そてのうへに涙をかけて たえぬ思ひのけふり 藤原清輔
玉葉雑 むかしのうつし世の たえぬかよふの 惟賢上人
新後拾恋四 谷をせきとめて たえぬ思ひのかけ 斎部敦子女王
伊勢物語 谷川のせきとめて たえぬ水の 同
玉葉恋五 はつ秋の風そよくなる たえぬ思ひの 藤原為子
後撰恋四 まつら潟あらき海のみるめ たえぬ思ひのよそのしら浪 よみ人しらす
新千恋二 まつら潟の海のそての たえぬもしほの 典侍親子
後撰恋六 沖つ舟にくたけぬる たえぬ山の井の水 亀山院
拾遺恋上 かへりうきまにゆく たえまにみゆる秋の夕暮 よみ人しらす
後撰恋一 つれなきをまたみる たえまにもしのひかねつゝ 源顕国朝臣
金葉恋下 我こひはあらぬ人を たえまに秋の山風 藤原顕輔
壬生二集中 うらかれて萩の下葉 たえまにおつる秋の露
新葉秋下 雁かねのなく山の端に たえまにみゆる秋の夜の月 文貞公女
拾玉集二 かつらきや峯の白雲 たえまに見ゆる布引の布

後撰羇旅　[illegible]河霧乃　たえま[illegible]の山本　[illegible]

風雅秋下　難波潟浦[illegible]秋[illegible]　たえま[illegible]　二條院参河

新勅秋上　[illegible]秋霧の　たえま[illegible]　よみ人しらず

同冬　山[illegible]雲の　たえま[illegible]雪　[illegible]右大臣

後拾秋上　逢坂乃関の杉[illegible]　たえま[illegible]月の駒　[illegible]

新後拾四　[illegible]　たえま[illegible]　法眼源兼

拾玉集一　[illegible]　たえ[illegible]

玉葉秋上　[illegible]　たえ[illegible]　馬内侍

新古今三　[illegible]秋の野[illegible]河　たえ[illegible]　坂上是則

新千夏下　[illegible]の[illegible]　たえ[illegible]　[illegible]

続拾遺三　[illegible]野中[illegible]氷　たえ[illegible]　大和宣旨

拾衣二　[illegible]

玉葉二　[illegible]　たえま[illegible]　よみ人しらず

新千四　[illegible]河　たえ[illegible]埋木　贈三位為子

続拾遺雑二　[illegible]　たえ[illegible]中河の水　式部命婦

新葉四　[illegible]　たえ[illegible]　[illegible]

拾遺恋下　[illegible]　たえて[illegible]山川乃水　小侍従

新古今　玉[illegible]人の[illegible]　たえて[illegible]　藤原定家朝臣

新後拾雑上　[illegible]　たえて[illegible]　法印[illegible]

続後拾四　[illegible]　たえて[illegible]　[illegible]

続後撰四　葛城乃[illegible]　たえて[illegible]　中納言資季

壬生二集中　[illegible]山藤の[illegible]　たえて[illegible]

新千恋又　[illegible]　たえて[illegible]　よみ人しらず

拾遺恋下　[illegible]　たえて[illegible]山川の水

同　[illegible]　たえて[illegible]

新続古四　[illegible]雲乃　たえて[illegible]　[illegible]

古今恋二　風[illegible]雲の　たえて[illegible]　[illegible]

拾遺[illegible]　[illegible]　たえて[illegible]　藤原家隆朝臣

新古恋下　[illegible]雲の　たえて[illegible]　前大納言為家

新後拾遺四　[illegible]山井の[illegible]　たえて[illegible]　従二位儀子

新葉恋五　[illegible]氷　たえて[illegible]

拾遺[illegible]　[illegible]　たえて[illegible]　よみ人しらず

新勅恋五　[illegible]　たえて[illegible]　清原元輔

続拾遺恋三　[illegible]　たえて[illegible]　太上天皇

新後[illegible]　[illegible]　たえて[illegible]

風雅恋下　[illegible]　たえて[illegible]　[illegible]

新葉集 春下　[illegible]　中務卿[illegible]

同 雑中　[illegible]　[illegible]

続後拾遺 恋二　[illegible]　人丸

古今 恋三　[illegible]　よみ人しらず

拾遺 恋五　[illegible]　正三位[illegible]

風雅 雑中　[illegible]　信実朝臣

新後撰 恋四　[illegible]

壬生二 恋下　[illegible]　前権中納言[illegible]

続拾遺 恋　[illegible]　権中納言[illegible]

新千載 恋又　[illegible]　[illegible]

新勅撰 恋二　[illegible]

続後撰 恋四　[illegible]　贈従二位[illegible]

新葉 秋　[illegible]　大納言[illegible]

拾玉集 二　[illegible]

後拾遺 恋　[illegible]　赤染衛門

玉葉 雑三　[illegible]　[illegible]

続後拾遺 恋二　[illegible]　[illegible]

千載 春上　[illegible]　[illegible]

壬生二 恋中　[illegible]　前関白太政大臣

続古 雑上　[illegible]

拾玉集 又　[illegible]

拾遺 恋五　[illegible]　よみ人しらず

続後撰 恋六　[illegible]

長秋詠藻　[illegible]

壬生二 恋下　[illegible]　太上天皇

新後拾遺 恋下　[illegible]　入道前太政大臣

新勅撰 雑　[illegible]

壬生二 恋　[illegible]

新千載 恋二　[illegible]　権大納言[illegible]

続後拾遺 秋　[illegible]　前関白左大臣

続古 恋一　[illegible]　よみ人しらず

拾遺 恋中　[illegible]

新拾遺 秋　[illegible]　[illegible]

続拾遺 冬　[illegible]　清原[illegible]

続後拾遺 恋一　[illegible]　左京大夫顕輔

新勅撰 雑二　[illegible]　[illegible]太上天皇

古今哀傷　墨染の君か袂は雲なれや　たえす涙の雨のみそふる　たゞみね

拾遺愚草下　浦さびぬ…の雪風その上よ　たえぬむしろに…下水　後京極摂政

後撰羈旅　あきを秋の…の下山風よ　たえもおきつる…　前大納言基良

拾遺愚草上　松風の積れる…吹て　たえもおきつる…　大蔵卿隆博

新拾遺恋一　我袖はあらぬ…吉野河　たえも…の水上　正三位通…

新後拾遺恋一　うれしさも…　たえもやしる月の…　…

拾遺愚草上　袖の上にあり…　たえも…のうへ…　皇太后宮大夫俊成

新古今哀傷　…　たえもそよみ…　…

拾玉集四　…　たえも…　…

後撰恋一　…　たえもそよ…　亀山院…

拾遺愚草中　…水の…　たえすこそ…　…

月清集上　…伏見の…　たえも…　山部赤人

新古今集上　あつさ…山ちかく…　たえも…　…

後拾遺羈旅　…　たえも…　…

月清集下　君…　たえも…　…

壬生二集下　君がいか…　たえも…　…

拾玉集十一　今はさ…　たえも日吉の…　…

拾遺愚草下　…　たえもとまる…　…

後拾遺恋四　かきくもり雲まもみえぬ…　たえ…　荷原長餘

後撰雑下　いつ…　たえ…　…

拾遺愚草上　…　たえ…　…

千載恋二　みちのくの…　たえ…　…

後古恋一　大井河…　たえ…　…

新古恋三　君…　たえ…　人丸

後撰秋上　秋の夜の…七夕…　たて…　…

新千載上　山…　たて…　…

後拾遺上　今もなほ…　たて…　…

新千載上　…　たて…　…

同名残　…　たて…　…

新勅恋二　…　たて…　…

山家集下　…　たて…　…

壬生二集下　…　たて…　…

古今俳諧　…　たて…　…

壬生二集下　…　たて…　…

新後拾羈旅　…　たて…　…

新後名残　…　たて…　…

新千載一　うきくさのこえてや…梅…　なかしとも…浦風…　前中納言有忠

続後撰神祇　春日…山…　なかれ…今も…　寂然法師

風雅神祇　うこかぬ…国…　なかれ…　後西園寺入道前太政大臣

続後撰巻一　難波…　なか…　[illegible]

玉葉雑二　水との…流…　たき…　僧正慈昭

新古巻一　春の…　たき…　よみ人しらず

新拾冬　山…　たき…　貫之

新拾雑中　…　たき…　能因法師

玉葉雑三　山風…　たき…　新院御製

拾遺愚草上　…　たき…　前大僧正慈鎮

新後撰巻一　…難波の…　たき…　従二位家隆

続古今下　…　たき…　鎌倉右大臣

新拾遺上　…風の…　たき…　前大納言為氏

同冬　…　たき…　如願法師

玉葉夏　夕されは…　たき…　如願法師

風雅雑上　風…水…　たき…　よみ人しらず

後撰秋上　天の河…　たき…　[illegible]

新古秋上　…　たき…　紀友則

新後拾遺一　…　たき…　三善長衡

風雅巻一　…川　たき…　前参議雅経

新拾巻一　…水…　たき…　伊勢

古今巻一　…山…水…　たき…　よみ人しらず

後撰巻四　…山…水…　たき…　[illegible]

拾遺自外上　水…　たき…谷川　貫之

風雅雑上　松の…秋風…　たき…　今出川左大臣

新葉巻下　…　たき…　つらゆき

拾遺冬　…　たき…　よみ人しらず

古今巻三　音羽川…　たき…　右近

拾遺雑巻　…月…山…　たき…　紀貫之

新拾巻上　…　たき…　前中納言為忠

新葉夏　…　たき…　恵慶法師

続後拾冬　水…氷…山…　たき…　[illegible]

古今賀　…　たき…　[illegible]

壬生二条中　…　たき…　[illegible]

後撰羇旅　秋山…　たき…　[illegible]

新葉巻下　山…　たき…　太宰大弐[illegible]

山家集下　罪人のしぬるよもなくもゆる火の　たきゞとならん事ぞかなしき

後拾遺哀　つねよりもけふの霞ぞあはれなる　たきゞつきにし煙とおもへば　前律師慶暹

玉葉尺教　人よりも[illegible]　たきゞつみ[illegible]　法性寺入道前関白太政大臣

月清集上　[illegible]　たきゞこる[illegible]

拾遺雑上　松かぜの[illegible]　たゆみくる[illegible]　[illegible]

後拾遺雑三　うけひかぬ[illegible]　たゆとても[illegible]

拾遺恋四　[illegible]　たゆともいふ[illegible]

壬生二集下　うき人の[illegible]　たゆともよし秋の山風　大納言[illegible]

後撰雑中　今はとて[illegible]　たゆるべくもなきつき[illegible]

山家集上　[illegible]　たゆるは[illegible]

金葉恋上　[illegible]　たゆるものから[illegible]

拾遺哀傷　[illegible]　たゆるとも[illegible]

千載恋上　吉野山[illegible]　たゆることなき[illegible]白雲

拾遺恋上　[illegible]　たゆる[illegible]

新勅恋四　[illegible]　たゆるとも[illegible]　和泉式部

後拾遺雑一　[illegible]　たゆるとも[illegible]　少将内侍

後拾雑上　[illegible]　たゆるとも[illegible]　読人不知

後撰恋四　山さとは[illegible]　たゆたふ[illegible]

新勅恋四　[illegible]　たゆたふ[illegible]

大和物語　[illegible]　たゆたふ[illegible]

後撰雑中　大海に[illegible]　たゆたふ[illegible]白雲　柿本人丸

新拾羇旅　船とめて[illegible]　たゆたふ[illegible]　[illegible]

後拾恋一　[illegible]　たゆたふ[illegible]　光孝天皇御製

風雅恋三　[illegible]　たゆたふ[illegible]　よみ人しらず

須磨　[illegible]　たゆたふ[illegible]

後撰秋下　[illegible]　たゆむ[illegible]　平重時朝臣

新後拾恋一　[illegible]　たゆむ[illegible]　寂蓮法師

新後冬　[illegible]　たゆむ[illegible]　中納言定家

月清集下　[illegible]　たゆむ[illegible]

拾遺恋上　[illegible]　たゆむ[illegible]

同　[illegible]　たゆまぬ[illegible]

後拾遺　[illegible]　たゆまず[illegible]　前中納言定家

壬生二集中　[illegible]　たゆみ[illegible]

後拾遺雑下　[illegible]　たゆ[illegible]　法印定円

新葉恋二　[illegible]　たゆ[illegible]　[illegible]

拾遺恋一　名をおしむ[illegible]　なかもなく[illegible]　大納言[illegible]
続千載賀　菖蒲草ひくてもつかへさ　なかめ[illegible]世をかさねん　伏見院御製
続古今恋三　有明の月ともいはて[illegible]　なかめ人の[illegible]　後京極摂政太政大臣
新勅撰賀　[illegible]　なかめ[illegible]　入道前太政大臣
新千載賀　花の色[illegible]千世をかさねて[illegible]　なかめ[illegible]　為氏卿
同秋下　植てみる[illegible]月乃　なかめ[illegible]　[illegible]
新後撰雑上　勅なれ[illegible]　なかめ[illegible]白菊[illegible]　[illegible]
玉葉　[illegible]紅葉[illegible]　なかめの[illegible]根本　西園寺入道前太政大臣
山家集上　天河[illegible]　なかめ[illegible]　為氏卿
新勅撰賀　みかきの[illegible]世の　なかめ[illegible]　入道[illegible]
新拾遺賀　君か[illegible]世の[illegible]　なかめ[illegible]　[illegible]
新後拾遺神祇　神垣の松[illegible]　なかめ[illegible]世を[illegible]　[illegible]
新千載雑中　[illegible]　なかめ[illegible]君代の[illegible]　従三位[illegible]
新続古今賀　今そ[illegible]　なかめ[illegible]　権中納言[illegible]
続後撰秋上　富士の根[illegible]　なかめ[illegible]成ぬへき月　今出川院近衛
風雅雑下　[illegible]　なかめ[illegible]　太上天皇
新後拾遺雑下　十[illegible]世[illegible]　なかめ[illegible]　光厳院御製
山家集下　[illegible]　なかめ[illegible]　[illegible]

新勅撰賀　[illegible]松[illegible]　なかめ[illegible]　前関白
新後拾遺雑中　[illegible]世の[illegible]　なかめ[illegible]　普光園入道前関白左大臣
新古今賀　[illegible]　なかめ[illegible]　後鳥羽院御製
月清集上　天[illegible]　なかめ[illegible]　[illegible]
玉葉恋上　み[illegible]　なかめ[illegible]　後京極摂政
続後撰恋五　[illegible]世を[illegible]　なかめ[illegible]　参議雅経
新千載雑中　[illegible]君[illegible]　なかめ[illegible]　津守国冬
新拾遺賀　世を[illegible]　なかめ[illegible]　伏見院御製
拾遺愚草上　[illegible]衣　なかめ[illegible]　[illegible]
古今雑上　なか[illegible]　なかめ[illegible]　よみ人しらす
新千載雑上　白[illegible]衣[illegible]　なかめ[illegible]　山階入道左大臣
新続古今賀　あめ[illegible]　なかめ[illegible]　津守経国
新千載雑上　難波[illegible]　なかめ[illegible]　大納言[illegible]
拾玉集六　[illegible]　なかめ[illegible]　[illegible]
漂　[illegible]　なかめ[illegible]　[illegible]
風雅雑上　[illegible]衣　なかめ[illegible]　高階宗成
新後拾遺恋　[illegible]衣　なかめ[illegible]　太政大臣
壬生二家下　めくみあれ[illegible]柳[illegible]　なかめ[illegible]　[illegible]

類句　九

拾遺哀傷　うへてみし…　たひね…みゆ

風雅旅　あはれとや…風のたよりに…　たひね…　院御製

壬二集下　…　たひの…

新千載秋下　…　たひの…　中務卿宗尊親王

新千載雑上　あらし吹…水も…　たひの…　前中納言雅継

同雑中　…　たひの…　後鳥羽院御製

新葉雑下　…　たひの…　後嵯峨院御製

壬二集中　…　たひの…

續後拾旅　…山の…　たひね…　後嵯峨院御製

金葉旅　菖代の水…　たひや…　高階明頼

風雅恋四　…　たひの…　貫之

新葉雑別　…　たひ…　よみ人しらず

拾遺恋五　…　たひね…

金葉恋上　これ…　たひね…　藤原家隆

續古今羇旅　…　たひね…　大納言旅人

新古今羇旅　世中…　たひの…　皇太后宮大夫俊成

續後撰羇旅　…　たひね…　太上天皇

新拾遺恋　…　たひね…　前大僧正

新後拾恋　…　たひね…　前関白…

風雅旅　…　たひね…　讀人しらず

長秋詠藻上　…　たひね…

新千載冬　…浦の…　たひね…

續後古冬　…浦の…　たひね…　後嵯峨院

山家集下　君…　たひね…　後京極摂政

拾玉集四　…　たひね…

同　…　たひね…

新後羇旅　…　たひね…　平親清女妹

拾玉集七　…　たひね…

同　…　たひね…

續千載雑別　…　たひね…　大中臣能宣朝臣

風雅旅　…　たひね…　民部卿

詞花別　…　たひね…

詞花雑上　…　たひね…　隆源法師

新後拾羇旅　…　たひね…　よみ人しらず

拾玉集三　…　たひね…

山家集上　…　たひね…

新続古羈旅　都にも今や衣をうつの山ゆふしもはらふ　たびねとも　従三位為子
長秋詠藻下　初瀬山尾上の鐘にめさめつゝ　たび山家　
新拾羈旅　立かへりかすむもみちの　なのしの宿の　前大僧正覚源
玉葉　ちぎりおきしわかれの　なのみの神も　
新後撰羈旅　むすぶ夜の旅ねをたのむ　なひねのとこ　源仲恒
新葉羈旅　秋もなほ花の　なひねの月を　権僧正良瑜
拾遺愚草上　我もまた　なひね　
新後拾遺　岩代の松の　なひねの露　従三位範宗
新拾羈旅　故郷を忘れんとてもなかなかに　なひねの夢の　前大納言忠孝
拾玉集　夢ならぬ　なひねの　前大納言為氏
続千羈旅　松の風　なひねのね　
新古羈旅　秋風の　なひねの　従三位行家
風雅羈旅　山の　なひね　同
万葉　　なひね山　
拾遺雑秋　　なひね　浄弁
後撰雑　　なひね　よみ人しらず
拾遺別　草まくら　なひね　よみ人しらず
同恋　　なのね　よみ人しらず

新古今雑　　なひね　前中納言定家
山家集上　　なひね　西行法師
詞花雑下　　なひね　西行法師
新古秋下　　なひね　大納言経信
新後撰羈旅　　なひね　源兼氏
新続古羈旅　山の　なひね　白河院御製
須磨　　なひね　
詞花雑下　　なひね　仲正
後拾羈旅　　なひね　待賢門院堀河
山家集下　　なひね　よみ人しらず
続後拾羈旅　　なひね　
拾玉集六　　なひね　
同七　　なひね　
玉葉羈旅　　なひね　皇后宮
拾玉集六　　なひね　
長秋詠藻　　なひね　
後撰羈旅　氷ひとつ　なひね　菅原右大臣
続千秋上　　なひね　小侍従

拾遺集 十六 [illegible] 権大納言公任

風雅 雑下 [illegible] 正三位経家

同 旅 [illegible] 登蓮法師

新後拾遺 羇旅 [illegible] 源師光

新勅撰 羇旅 [illegible]

山家集 上 [illegible]

拾遺集 七 [illegible]

拾遺 [illegible] 上 [illegible] 人丸

後拾遺 [illegible] [illegible]

古今 離別 [illegible] よみ人しらず

続古今 秋上 [illegible] 僧正行尊

続拾遺 羇旅 [illegible]

山家集 下 [illegible]

続拾遺 [illegible] [illegible] 大中臣能宣

拾遺 雑 [illegible] よみ人しらず

末摘花 [illegible]

大和物語 [illegible]

月清集 上 [illegible]

後撰 恋二 [illegible] 清正女

山家集 下 [illegible]

新古 雑上 [illegible]

千載 秋上 [illegible] 円位法師

新続古 羇旅 [illegible] 安法法師

新拾 恋一 [illegible]

千載 秋上 [illegible]

壬生二 [illegible] 上 [illegible]

拾玉集 七 [illegible]

同 三 [illegible] 前大僧正慈円

続古 羇旅 [illegible]

拾玉集 七 [illegible]

同 一 [illegible]

同 三 [illegible]

新古 雑上 [illegible]

山家集 上 [illegible]

拾玉集 四 [illegible]

山家集 上 [illegible]

[illegible]

千載秋 [illegible]

新古今 [illegible]

[illegible]

拾玉集六 [illegible]

[illegible]

[illegible]

拾玉集一 [illegible]

同二 [illegible]

拾遺愚草 [illegible]

新古今 [illegible]

[illegible]

[illegible]

拾玉集七 [illegible]

[illegible]

拾玉集一 山里 [illegible]

千載秋上 [illegible]

[illegible]

拾玉集七 [illegible]

風雅 [illegible]

[illegible]

月清集上 [illegible]

山家集下 [illegible]

[illegible]

月清集上 [illegible]

古今 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山家集上 [illegible]

[illegible]

壬生二品　[illegible]

拾遺愚草上　[illegible]

新古今集　[illegible]

長秋詠藻下　[illegible]

新後撰集　[illegible]　惟宗[illegible]

山家集下　[illegible]　[illegible]法師